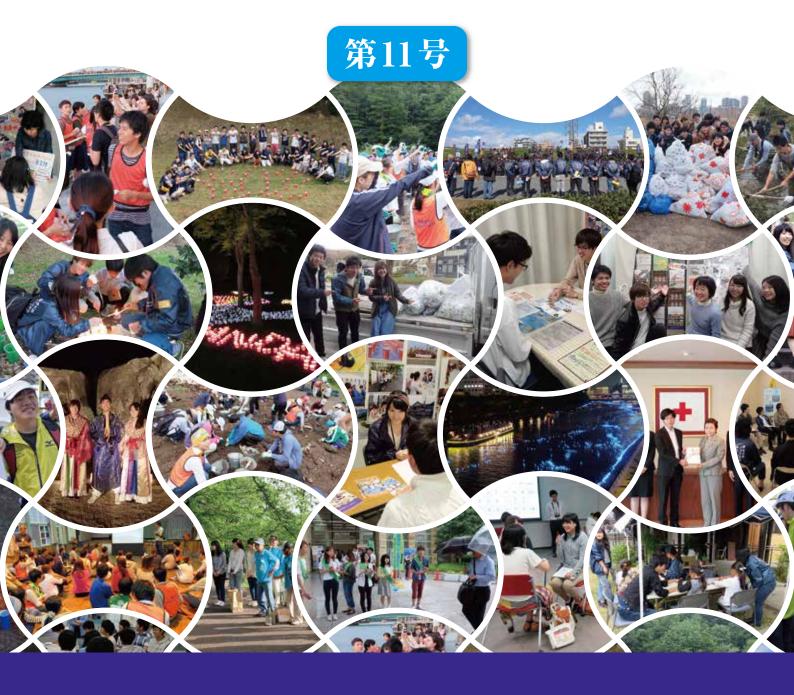
2016年度

活動報告書





関西大学ボランティアセンター

2016年度のボランティアセンター活動報告書刊行に寄せて

ボランティアセンター長 岡 本 哲 和

ボランティアセンターは開設 11 年目を迎え、さらに発展すべく新たな一歩を踏み出しました。 当センターは、一人でも多くの関大生がボランティア活動に魅力を感じ、最初の一歩を踏み出 せるように様々な支援をしています。最近の傾向として、日本全体で見ると、ボランティア参加 者数は大きく増えているわけではありません。そのような状況でも、関西大学の学生スタッフが 企画・運営して行うボランティア体験ツアーは年間 20 件以上にのぼり、ボランティアセンター主 催の活動を合わせると、約 1,350 名の学生がボランティア活動に参加しています。

ボランティア活動での経験は、実社会での問題・課題への関心を高め、自主的に考える力を育みます。また、世代を越えた人たちとの交流をとおして、コミュニケーション力の向上をもたらします。ボランティア経験者は、他者とのつながりをより強く感じるようになるとの研究結果もあります。

2016年度の取り組みとして、主な活動のほんの一部ですが、紹介いたします。

4月には「熊本地震」が発生し、多くの方が被災されました。当センターは、学生の「被災した方々へ支援を行いたい」という思いを受け止め、ボランティアセンター学生スタッフと一般学生の有志とともに義援金募集を行い、学内で「皆の気持ちを届けようプロジェクト」支援・応援活動をしました。

11 月には、本学は創立 130 周年を迎えました。当センターも 130 周年を記念した三つの事業を展開し、学内外から高い評価を得ることができ、新しいステージへと進み始めたのです。

第1は、5月20日の公開講座です。赤星憲広氏と山縣文治教授による対談「走った数をみんなの笑顔に」~赤星流☆彡ボランティアのススメ~を開催し、約600名の聴衆を集めました。「一歩踏み出す勇気を持つことの大切さ」など、多くの感銘をよび、充実した内容で大好評を得ました。

第2は、9月14日~16日に「富士山清掃ボランティア」を実施しました。約40名の参加学生が、世界遺産に登録された富士山が直面している環境問題について、事前ガイダンスや当日の活動を通して、広い視野で考える機会となりました。

第3は、ボランティアコミュニティ "kizuki" (以下 "kizuki" と記す)を立ち上げました。ボランティアセンター学生スタッフの卒業生を中心にした新たなコミュニティの誕生です。発足会を2月に開催しました。現役学生と卒業生の熱のこもった交流は、新たな活動の可能性と発展性が予測できるものとなりました。

今年度の取り組みは質・量ともより充実したものとなり、学内でのボランティア活動に対する理解をさらに深めました。また、"kizuki" の発足により、学生スタッフ OB・OG との絆を深め、活動の場を広げることもできました。

これからも、ボランティアセンターの多彩な活動と新たなチャレンジに対し、益々のご理解と ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

2016年度ボランティアセンター活動報告書刊行に寄せて …… ボランティアセンター長 岡本 哲和

1	2016年度ボランティアセンター事業報告	4
2	関西大学創立130周年記念事業	6
3	環境保全活動及び連携事業	23
4	堺市との地域連携事業におけるボランティア活動(事務局:堺キャンパス事務室) …	29
5	学生スタッフ育成プログラム	30
6	各種講座•講演会	33
7	ボランティアセンター学生スタッフ活動記録	41
8	学生スタッフ代表からの一言	63
9	ボランティア団体への支援	66
10	広報活動	78
11	学生の声	84
12	資料	87
13	ボランティアセンター紹介記事	91
編集	集後記	巻末

1 2016年度ボランティアセンター事業報告

関西大学ボランティアセンターは、関大生のみなさんがボランティア活動を通して多くの学び や気づき、貴重な経験等が得られるよう、日々新たなボランティア活動支援を模索しています。

2016年度、ボランティアセンターでは、関西大学が創立130周年を迎えることを記念して、創立130周年記念講演会「赤星憲広氏と山縣文治教授による対談」を企画し、600名を超える来場者にボランティアの魅力について伝える場を創出しました。また、「富士山清掃ボランティア〜みんなでつなげる環境の"輪"〜」と銘打って富士山が直面している環境問題に触れる2泊3日のバスツアーを40名の学生と実施しました。清掃活動、はたまた清掃ボランティアの未来を考える講座やワークなど"ボランティアにまみれた3日間"を過ごす取り組みを行いました。

また、本学を卒業後もボランティアに携われる機会を創るべく、ボランティアコミュニティ "kizuki"を結成し、ボランティアというキーワードのもとに現役学生と卒業生が共に時間を過ごすことができる結節点を産み出しました。

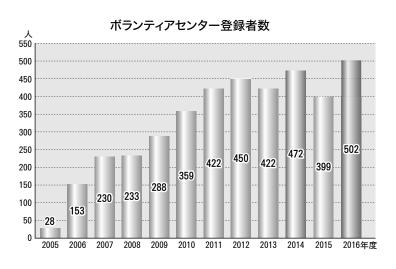
以上のように、新規事業として創立130周年記念事業に取り組む一方、従来より当センターが 取組んできた事業も規模を拡大しながら取り組み、2016年度は跳躍の年となりました。

今後は、従来の活動に力を入れつつも社会的要請に応えるよう、様々なボランティアの可能性 を本学学生と展開していきます。

センター登録者は累計3,958名を突破しました。

データ ボランティアセンター登録者数

年度	登録者数
2005	28
2006	153
2007	230
2008	233
2009	288
2010	359
2011	422
2012	450
2013	422
2014	472
2015	399
2016	502
計	3,958



2016年度ボランティアセンター事業概要

1

学生スタッフ育成及び学生ボランティア団体への支援

- ・学生スタッフガイダンス
- ・学生スタッフ養成講座
- ・学生スタッフ養成合宿
- ・学生スタッフ代表者及びグループリーダーとの ミーティング
- ・ボランティアセンター教職員と学生スタッフの懇談会
- ・学内ボランティア団体とのミーティング
- ・学生スタッフ活動報告会
- ・学生ボランティア団体合同企画 ボランティアフェスティバル

2

本学学生のボランティア活動支援のための講座・プログラムの実施 (2016年度の主なもの)

- ・ボランティアセミナー はじめよう!ボランティア
- ・コミュニケーションスキルアップ講座「学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー」
- ・災害ボランティアガイダンス
- ・テーマ別講座「レクリエーション講座 | ~楽しくなる "魔法のかけ方♪" ~
- ・テーマ別講座「学習支援」って何だろう?~子どもの学びをサポートしよう!~
- ・みんなで考える!環境ミーティング! 環境講座
- ・関西大学創立130周年記念事業 「赤星憲広氏と山縣文治教授による対談 |

3

学生スタッフによる活動

- ・ボランティア情報の紹介
- ・新入生歓迎行事「学生スタッフ活動紹介」
- ・関大クリーン大作戦 ~図書館の本の落書き消し~
- ・関大クリーン大作戦 ~大学周辺の清掃活動~
- ・ボランティア体験ツアー ~淀川掃除ボランティア~
- ・ボランティア体験ツアー ~小学生に防災について 楽しく学んでもらおう!学童ふれあいボランティア~
- ・ボランティア体験ツアー 見て発見、さわってかいめ い! 身近なフシギ! @キッズミュージアム
- ・ボランティア体験ツアー ~きれいな摂津峡を守ろ う! 摂津峡クリーンアップボランティア~
- ・ボランティア体験ツアー ~千里にみんなの光を灯 そう! 千里キャンドルロード2016ボランティア~
- ・関大防炎DAY ~広がれ!みんなの安全·安心!~ 「学んで役立つ防炎のいろは」
- ・ボランティア体験ツアー まちFUNまつり in 関西大学2016運営補助ボランティア
- ・第5回学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会への参加

- ・大阪マラソン給水ボランティア事前説明会における学生 スタッフによるボランティア紹介
- ・ボランティア体験ツアー ~日用品で子どもたちと楽しくレッツ工作!~
- ・頑張る人を学生スタッフと一緒に応援しよう!! ~第6回大阪マラソン給水ボランティア~
- ・ボランティア体験ツアー2016 学園祭「学んで教える防災のいろは ~子どもと楽しく学園祭~」
- ・ボランティアカレンダーの作成

他大学及び学外の機関との連携で行うもの

- ・ボランティア体験ツアー
- ~みんなで守ろう!蛍の光ボランティア~
- ・ボランティア体験ツアー ~アユの産卵場を整備しよう!~
- ・ボランティア体験ツアー ~飛鳥光の回廊~ボランティア
- ・ボランティア体験ツアー
- ~景観ボランティアin明日香村~
- ・第6回「淀川大掃除 ~みんなの力で輝く淀川~」
- ・エコキャップ運動



2 関西大学創立130周年記念事業

本学ボランティアセンターでは、創立 130 周年記念事業として、① 130 周年記念講演会「走った数をみんなの笑顔に」~赤星流☆彡ボランティアのススメ~、②富士山清掃ボランティア~みんなでつなげる!環境の"輪"~、③ボランティアコミュニティ"kizuki"発足会を実施した。①の講演会は、一般市民にも参加募集をかける形で開催したこともあり、地域の方に対しても、ボランティア活動の魅力を発信する貴重な機会となった。また、②の富士山清掃ボランティアについては、今回初の試みであったにもかかわらず、一般学生の参加希望も多く充実した活動となった。③のコミュニティ発足会では今までボランティアセンターに携わってくれた学生 OB・OG及び教職員が一堂に会し、ボランティアセンターの近況報告及び現役生と卒業生を交えたワークを行うなど、非常に貴重な機会となった。

赤星憲広氏と山縣文治教授による対談

「走った数をみんなの笑顔に」~赤星流☆彡ボランティアのススメ~

日	時	2016年 5 月20日(金) 18:00~19:30
会	場	本学千里山キャンパス 第2学舎 BIGホール100
対	談	赤星 憲広 氏(元阪神タイガース選手、現野球解説者) 山縣 文治(本学 人間健康学部教授)
司	会	赤尾 勝己(本学 学生センター副所長※、文学部教授)
挨	拶	開会:吉田 栄治(本学 副学長※、法学部教授) 閉会:黒田 勇(本学 学生センター所長※、社会学部教授)

※開催当時役職

○司会 ただ今より関西大学創立 130 周年記念事業、赤星憲広氏と山縣文治教授による対談「走った数をみんなの笑顔に」~赤星流☆彡ボランティアのススメ~を開催いたします。司会を務めさせていただきます関西大学学生センター副所長の赤尾と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

主催者を代表いたしまして関西大学副学長、吉田栄司より開会のごあいさつを申し上げます。

■開催あいさつ

吉田 栄司 氏(関西大学 副学長)

本日はこの企画にようこそお集まりくださいました。

ご承知のとおり、関西大学は130周年の記念の年を今年11月に迎えます。その記念事業の1つとしてこの企画をさせていただきました。

ボランティアという言葉は、任意奉仕志願者とでも訳しましょうか、広く使われるようになったのは、とりわけ 1995 年の阪神・淡路大震災が発端でしょう。やや遅れ、関西大学にボランティ

アセンターが 2005 年に立ち上がりました。学生たちに応募をかけたところ、当初ボランティア 登録者は 28 名にすぎなかったのですが、どんどん毎年数が増え、昨年には年間約 400 名の学生 が登録をしてくれています。

今年(2016年)4月に熊本地震がありました。被害に遭われた方々に衷心よりお見舞い申し上げます。本学ボランティアセンターでは当地震についても募金活動等々、活発な活動を続けています。本日お招きをする赤星氏が野球解説の傍ら、ボランティア活動を活発に実施されている事はお聞き及びのとおりで、本日お迎えでき、お話を伺える事を非常に喜んでおります。

地域に貢献する関西大学として、赤星さんのお話を、本学の山縣教授とのやりとりを興味深く 聴かせていただきたく思っております。そして、皆様方にとりまして有益な時間になることを期 待してごあいさつとさせていただきます。

■対談

赤星:よろしくお願いします。

山縣:よろしくお願いいたします。はい、今日はこの関大のボランティアセンター、ボランティア普及啓発のためにお越しいただきありがとうございます。

山縣:赤星さんを見に来られた方に手を挙げていただきました。阪神ファンの方が今手を挙げられた中に非常に多いのではないかと思いますが、今日はここにお越しいただいている場合ではないのではないですか。今日勝つと2位なので、甲子園に行って応援しないと…。また、ご存じの方も多くいらっしゃいますが、関大OBの岩田選手は1型糖尿病の方々に関する支援活動をされていますので、後ほど伺いたいと思います。



今年阪神はそれなりに頑張っていて巨人のしっぽが見えるとこにいますが、今までの戦いぶり を聞いてから本題に入っていこうと思います。

赤星:「赤星は何でコーチとして加わらないのか!?」って考えている方もおられるかと思いますので、そこはきっちりこの場で話しておきたいと思います。実は金本監督に真っ先にお声を掛けていただきました。最初に矢野さんと片岡さんにお話され、その次の日かに私にすぐ電話をいただきました。ただ、金本監督は私の体の状態をよくご存知でした。昨年、私は3カ月間動けなくなってしまった時期があり、仕事に穴をあけなければいけない時に、金本監督から「ここに行ってみたらどうだ!」という病院とか治療院を紹介いただいたのです。そういう事で、私の体の事を一番ご存知だったのも金本さんです。実際に矢野氏や片岡氏に関しては「やってくれるか?」、この一言だけだったらしいです。それに対して、コーチ陣はみんな、「分かりました、やります。」というその一言です。私にだけはそれを言ってしまうと、多分赤星は断れないし、体の事もあって無理をさせてはいけないので、まず「体の状態はどうだ?」という事から聞き、球団側もその経緯を知っているので、体の事を心配してくださいました。あまり無理をさせられないと……。

金本さんに言われたら断れないと、正直私も思っていました。まさかこんなに早く金本さんが監督になるとは思っていなかったので、あと2年ぐらいは準備期間があると考えていました。 [3日、時間をください]とお願いしましたが、2日目で金本さんから電話が掛かってきて、「どうや」と。 「いや、金本さん、3日間経ってないんですけど……」と申し上げようとしたら、金本さんが「今回はやめよう。やっぱり赤星に無理をさせられない。だから、もちろんコーチという立場ではないけれど、外からいろいろアドバイスをしてやってくれ。今までも多分、いろんな監督に言われてきただろうけど、それ以上に球場に来たときは関わってくれ。選手たちにいろいろ言ってくれ!」という事を申されました。

私が断りにくい事を、金本さんはよく分かられていましたので、私が断る前に金本さんから言ってくれたというのが事実です。さすが先輩と思いました。そういう結果になりました。だから今は、球場に行ったときに外からいろんな選手へ「どうだ、こうした方がいいんじゃないか」という様に、ちょっとアドバイスをさせてもらっています。

何よりも金本監督に代わって、阪神はすごく面白い野球をしてくれている。負けても何か仕方ないなという雰囲気です。今までだったら、「何でああいう事になるんだ」と思う事になりますが、見ていて面白い野球をしてくれていると皆さんも感じていると思います。

何より、野球ファンの人たちも含めて「こんな選手いたのか」という選手を結構使っています。 昨日もラジオ中継の解説をしていた時、あの競った場面で7回の石崎投手が登場しました。去年 入ったばかりの選手で、知らない人もいると思うんです。石崎投手に同点の場面で投げさせる。 さあ、8回に誰が行くのかなと思ったら、田面選手。私は知っていますが、だけど、その同点の 場面に、育成から支配下(選手)登録した選手に投げさせる。正直、私もちょっと「大丈夫か!?」 とは思いました。

そうして、9回に藤川球児投手にチェンジしました。結局、さよなら勝ちで、そういうチャンスをもらった選手たちも結果を残して、若い選手たちにもチャンスを与えながら、勝とうというチームづくりを実行しているというのが非常に見ていて気持ちいいんです。



こんな事を言うと監督批判になってしまうのですが、前監督、前々 監督ぐらいの時代は、勝負に徹する事を考え過ぎた様に思います。金 本監督のやり方は、ファンの方からは非常に面白く、毎日スタメンが ころころ変わるので解説する側からはすごくやりづらいんです。その 選手の特徴を活かしながらやっていくというのは、本当にいい事だと 思います。

山縣:期待していいんですね。

赤星: いや、あんまり期待しない方がいいかも知れないです。たぶん、 育てながら勝つっていうのは相当難しい事なのに、たぶんいいところ まで行ってしまうと、阪神ファンなのでみんな優勝を期待してしまい

ます。ただ、金本監督からすると、そこを期待されると一番困ると思います。来年、再来年の事 を考えてやっていると思いますので、長い目で見ていただけるといいかなと思っています。

山縣:再来年ぐらいに赤星さんがコーチになる事を夢見ながら。

赤星:金本監督には「手術した方がいいんじゃないか」……とか言われてますが。

山縣:ボランティア活動で、どうして車椅子を寄付しようと思われたんですか?

赤星:よく聞かれますが、私はプロに高校から入った選手じゃなくて、大学も行きましたし、社会人として2年間、JR 東日本という会社に就職をしていました。実は私の幼少期から母親が体

調を崩す事が多くて、病院にしばしば入院していました。姉が看護師として勤めている病院に母が入院するケースが多くて、小学生のころ私はお見舞いに行っていました。その時私は1つ疑問を持っていました。

例えば 100 個ベッドがありましたら、その横に必ず車椅子というのが 100 個置いてあるものと 私は思っていました。体調が悪いのにもかかわらず、トイレに行くのに点滴を持って、よたよた 歩きながら行っている姿を見て、「何で車椅子に乗らないんだろう」という事が疑問でした。姉 から「車椅子ってね、病院に何台かしかないんだよ」っていうのを聞いたのが、その"きっかけ" です。

山縣: 赤星さんの俊足と、走れなくなった車椅子を利用する人と関係があると思っていましたが、 そうではないんですね。

赤星: その頃から街を歩いている時に、車椅子の方がいると、「この道では車椅子の人は通れないだろう」と考えるようになり、環境が気になるようになりました。今の日本の道路とか、街の中を見た時に、いろいろ問題があり、私に何ができるのかと考えました。なかなか行動に移せない自分がいたのは確かです。そして、私が就職した JR 東日本は鉄道会社で、バリアフリーを推進する会社でもありました。こういう会社はすごく大事ですし、会社とともに何が私にできるかと企画のスタッフとして参加することになったところ、ドラフトに指名され志半ばでプロの世界に飛び込みました。

山縣:プロに入って実際に行動しようとしたのは、どんな事からですか。

赤星:プロ野球選手になって、シーズン中にいろんなファンレターや手紙をいただくケースが多く、その中に、病院で今リハビリしている方や、ちょっと足に障がいがある人から、「赤星さんを見て勇気をもらっています」というメッセージが1年目に多くありました。その時に思いがふつふつ燃え上がってきた様に思います。私のルーキー時代から、私を追いかけて応援してくださっている1人の女性がいました。阪神



が優勝する前年の2002年に、骨肉腫で手術し、足を切らなければ命が助からないという事を私は知りました。ご両親から「赤星さんが言ってくれたら、きっと手術してくれると思う」と告げられ、私は彼女に1日でも長く生きてほしいとの思いが強くあり、「赤星さんが言ってくれるなら手術する」と理解してくれました。そして私は、彼女と足の代わりになる車椅子を贈るからっていう約束をしました。

車椅子を贈る"きっかけ"を彼女からいただいたと私は思っており、2003 年から「盗塁の数だけ車椅子を」という事を始めました。

山縣: "きっかけ"が行動の後押しをしたんですね。

赤星: やっぱりそういう誰かの後押しだったり、そういう意味で言うと、あの年からスタートさせる事ができたのも、彼女のおかげでもあるし、たくさんのファンが後押ししてくれたおかげでもあると思います。

山縣:ボランティア活動って自分の思いだけではなく、偶然の"きっかけ"、残念ですが震災があった中でボランティアをはじめることもありますね。それで始められて、今日時点で車椅子寄付の台数はどれくらいになりますか。

赤星:選手時代に300台以上贈っていますが、今もその活動を続けており、トータルで600台位です。必要とされている所に贈りたいので、病院施設とか、私の知り合いなどを中心に贈っています。ここ数年でいうと、介護施設に贈る機会が多いです。

山縣: 当然そこには「赤星」とか、サインが入っているんですか。

赤星:入っています。後ろのところに私のサインをしています。小児病棟に贈った時に子どもたちが「私が乗る」「俺が乗る」とけんかしている姿を見て、けんかはあまりよくないけれど、そういうのを見た時に贈ってよかったなと思いました。今もおじいちゃん、おばあちゃんがそう言ってくださるので贈ってきてよかったと思います。

山縣: 当初そんなに福祉とかボランティアというのは意識していなかったという事ですが、その 辺りをお聞きしたいと思います。

赤星:野球選手になれたから、いろんな方たちにそういう"きっかけ"を与えられる立場だと、私は思います。私が何か行動を起こす事によって、1人の人でも、「ああ、私もやってみよう」とか、「僕もやってみよう」と思ってくれる人が増えれば良いと思っています。甲子園の外野に障がい者の観覧席の設置・増設の時には、私も参加させてもらいました。改装は難しかったですが、「一生行けないと思っていたんですけど、実際甲子園に行く事ができました。いろいろな方が手伝ってくれて、手伝ってくれただけじゃなくて、思っていたより車椅子でも行動できるような感じになっていたので本当にうれしい」っていうふうに聞いた時に、良い仕事ができたと安堵しました。阪神に入った時点でもボランティア的な意識を持っていました。

山縣:ボランティアは、ただ単に手伝うとかそういうだけではなくて、社会を変えていく、世の中をよくしていく力にもなり得る。先ほどの岩田さん、関大の OB の方ですけれども、岩田さんが1型糖尿病の活動をされているのは、赤星さんと何か関係がありますか。

赤星:もちろん彼がやっている事に関しては、彼にしか分かりません。私が車椅子の活動をし始めた時は、まだそんなに野球選手がそこまでそういう活動をしている選手はいませんでした。それ以降、他球団の選手たちが様々な活動をするようになった時にいろんな方からも「何かしたい」っていうのがあって。岩田さんが彼なりに考えている事を聞いた事がありました。「それはもう、思ったら即行動だよ」という事を言った事がありますが、どのようにしたらいいのかは、彼が考えて行動した事だと思います。阪神の後輩がそういう活動をしているのは、すごくうれしいと思います。でもいろいろなチャリティー活動は何でもそうですが、実は日本の習慣としてあまりよく思われないことが多くて、私も活動を始めた時、いろんな方に偽善行動と言われた事がありました。

だけど、そう思う人は思えばいいと。でもやっぱり、そうじゃない人たちがたくさんいるという事で始めたのですが。今は本当にいろいろな選手、いろいろな業界の人たちがいろんな事をやっ



ている。今回熊本地震**¹があり、いろんな芸能人や他の方々が、現地に足を運んでいろんな人に勇気を与えている姿を見ていいなと思います。そして、岩田くんがやっていることは糖尿病を抱えている方たちからすると本当に希望の星になっていると思います。たくさんの人たちに勇気を与えているという意味でいうと、やっぱり彼がやっている事は素晴らしいと思います。野球界の各球団の人たちにも広まって、本

当にいろんな活動をいろんな選手たちが行っています。実は、これはメジャーリーグでは当たり 前なんです。

山縣: 例えばどんな事をやっている人がいるんですか。

赤星: アメリカではそういう活動をするのは当然と!? ハリウッドスターやいろんな職種で有名になられた方は、それがある意味セットになっているくらい。野球選手では、彼らが活動すると、ファンやいろんな方たちが一緒に活動します。それがやっぱり日本とアメリカの習慣の違いでもあると思います。でもここ数年を見ていたら、東日本大震災や前の阪神・淡路大震災があり、こうやって熊本地震も起きて、本当に日本はこれからどのぐらい災害が起こるのか、という事が増えてきていますよね。やはりその中で、現状でたくさんの方がそういう活動をしよう、みんなで援助をしようっていう方がいますが、実際にその中で犯罪も起きる、そのような日本の現状がある。ここにいる若い学生の方たちはこれからの日本を背負っていくわけですから、そういう部分でいろいろと変えていってほしい、頑張ってもらいたいと思います。

山縣:赤星さんが言われたように、日本の場合、目立つとたたかれる傾向があります。しかも有名人が目立つとなおさらたたかれる。特に今はネット社会ですから様々な問題も抱えています。特に車椅子の話を中心にボランティアの話が出てきましたけれども、その後、赤星さんは基金をつくられていろんな事をやっておられますね。

赤星: 引退してからいろいろ考えた結果、「赤星憲広の輪を広げる基金」を設立しました。 その基金は、ただ単に募金をしてもらうのではなくて、例えば交野市チャリティマラソン*2を 開催しています。

ちょうど開催する3日、4日前に熊本で地震があり、すごく気持ち的に重い中開催しましたが、皆さんから参加費をもらっていますから、今回はその参加費を義援金として贈りました。いつもはそれを車椅子の活動などに使わせていただいているんですが、皆さんと一緒に走る事でこちらから力を、パワーを送りましょうという事で実施しました。

自分の中で思っていても、どうしたらいいのかなかなか"きっかけ"がなくて、行動に移せない方たちがいると思います。少しでもそういう方たちの"きっかけ"づくりになるように活動をさせてもらっています。

山縣:今の話の中で「きっかけ」という言葉を何回か使われましたけれども、ボランティア活動はある意味、人と人の"きっかけ"をつくる。自分自身だけじゃなくて、目の前にいる人との"きっかけ"づくりの役割、機能を果たしていると思います。赤星さんがこの活動をされて、人と出会ったとか、縁に恵まれたなというのはありますか。

赤星:本当にいろいろなジャンルの方と知り合うきっかけになっています。学生の方も、一企業の方も、年齢に関係なく、そういう事を思っている方がたくさんいる事を再確認しました。今の大学生の方でも何かやろうとしている方がいる事に気付かされます。私はちょうど40歳になりましたけど、20歳上の方であったり、20歳下の方だったり、本当に年齢層が広く、いろんな人に協力してもらっています。そういう意味でいうと、この活動を通じていろんな方と知り合えているっていうのは非常にいい事なのかなと思います。

山縣: 赤星さんが、学生を前に話をされた後、学生から「何か自分にできる事ありますか」と質問が出るといっておられましたが、ちょっと先に聞いてみましょうか。今の段階で発言したいという人いませんか。

男性1:1年生ですが、高校時代の同級生の影響で、将来アフリカで、農業に関する施設を整えていこうといった事を考えて、今こうやって商学部に入って、経営とかを学ぼうと思っています。自分の中で、この考えをどのように行動に移していこうかと思っていましたが、「行動していく事が大事だ」と赤星さんがおっしゃられたので、意見を持って行動し、探し、社会的に実際に行動して、仲間を作っていく事ができればと思いました。



山縣:今実際に何かこんな事ができるという、イメージがありますか。

男性1: 資金がないので出資してくれる人を探し、ネットの力が強いので、SNS で共感してくれる人から、クラウドファンディングを利用し出資を募り、少しずつ広めていきたい。

赤星:いろいろ考えられていると思いました。私も実際に活動してきた中で、いろんな人たちが力を貸してくれる事で成り立っています。少しずつでも行動に移せたら、おそらく本当にたくさんの方が協力してくださると思いますし、何年後になるか分からないですけど、是非形にして欲しいです。

山縣: 赤星さんだから資金が集まると思っている人も正直いらっしゃると思います。でも、私たちが知っているボランティア活動の人たちって小さな活動からこつこつと始めて、それが広がり、資金を出してくれる人が出てくる、そんな可能性があります。

赤星:そうです。最初は徐々に始めて、資金繰りに苦労し、地道な努力で小さかったものが大きくなり、「赤星さん、私たちはここまでやってきました。ぜひ一緒にやりませんか」と言われる。そんなケースが多くなりました。どれだけ思いが強くて、その心を伝える事で、賛同してくれる人たちがどれだけ集まるかという事も大事だと思います。本当にそういう素晴らしい夢を持ってやってくださる方もいますので……

男性 2:かつての学生です。阪神ファンなので赤星さんに会いたいっていう事で参加させていただいたのですが、偶然、宿泊先のホテルに盲人の方が滞在されており、今まで誘導した事はなかったんですけど、初めて手すりまで誘導させていただきました。壁に当たっているのを見るに見かねて、やっぱり見て見ぬふりはできませんでした。1人ひとりが困った人を助ける事から始める事に関連して、少しコメントさせてもらいました。

赤星: まずその行動する事が恥ずかしいってどうしても思ってしまう人が多いんですよね。私も、 先日東京で、海外の方が道を探してとても困っておられ、その外国人が声を掛けているんですけ ど、みんなスルーして行くんです。でも、私も英語をしゃべれないのですが、これはよくないと 思い片言の英語で近寄っていって、「誰か英語をしゃべれる人はいませんか」と。たまたま新橋 駅の駅員さんに「多少できます」っていう人がいて助かりましたが、勇気を出すのは難いと思い ます。いろんな意味で声を掛けてくれる人が増える事を望みますが、実際あの光景を見たら東京 は怖いなと思いました。

山縣:今のも素晴らしいボランティア活動ですよね。自分が直接できなくても声を掛ける、「できる人いませんか」って。

男性3:(準硬式野球部員) 赤星さんにとって譲れないものを知りたいです。

赤星:決めた事が、迷ったら絶対に一歩踏み出す事です。私は盗塁が得意ですけど、この一歩を

踏み出せるか踏み出せないかが大事です。0コンマ何秒の世界で戦っていると、その場で迷って躊躇した時点で絶対に駄目だと私は思っています。だからとにかく迷ったとき、何かをどうしようかなと思った時は行動しようとしてきました。迷ったり勝負になった時には、絶対負けないという気持ちは持っていました。だから盗塁王を取れたのかなと思っています。体が小さいですし、プロ野球界で活躍できたのも、そう



いう気持ちを持ってプレーしてきたからだと思います。迷ったらやろう、行動しようというのが、 野球にも、学業にもこれからの社会にも生きるんじゃないかと思います。

野球に限らず、スポーツは本当に大きな力を持っていると思います。みんなは努力して今やっているわけですから、自信を持って今やっている事に取り組んでもらいたいです。それが今後の人生、みんな野球をずっとこれから続けられるかっていったら、そうではないですよね。でも社会に出て生きる事っていうのは、たくさんあると思うので、ぜひ今、あなたは準硬式で野球をやっていますけど、この関西大学で野球を続ける事で、将来的に生かせるように頑張ってもらえたらいいなと思います。

山縣:一歩踏み出すっていうのは、それぞれ恥ずかしい。でもその一歩踏み出す事がボランティア活動なんですね。思いがあるけど、動けるかどうか。そういう"きっかけ"をつくってくれる環境とか、そういう人に出会う事も非常に重要だというお話ではないかと思います。

ところで、活動した事によって得られた事は何ですか?

赤星: 私は特別な事をやってきたつもりはないですし、私はずっと思っていた事を行動に移して、同じ思いを持った方たちが参加してくれます。チャリティマラソン*2 に今では市(交野市)を挙げて協力してくれています。いろいろな人たちを巻き込む事で、「こんなにもいろんな人たちが協力してくれるんだ」というのは思っていなかったんですね。いろんな人たちが思いを分かれば、みんな協力してくれる、人が増えるという事が、私の一番の変化です。

ボランティアする事に対して、悪く思う人がいた状況からスタートしていますし、その中で本

当にたくさん賛同や協力してくれる方たちが増えたというの は想定外でした。それが私の中でやってきてよかったなと思 うことです。

私の中で特に何か変わった事をしたのかっていったら、私のやりたかった事、やろうと思っていた事。もちろん結果的にたくさんの方が喜んでくださっている。私は賛同してくれる仲間がこれだけ増えた事が、一番やってきて良かったという思いがあります。



山縣:仲間が増えた、自分のほうにメリットが結構あったという感じですね。

赤星: そうですね。私がやろうとしている事に、きっかけをもらった立場の人間でしたから、"きっかけ"を与える立場の人間になりたいという思いで、今の活動を続けてきました。そういう活動をしているときのみんなの笑顔を見ているだけで、私はやってきて良かったです。みんなの笑顔をたくさん見たいなという気持ちの方が、今一番強いなって思いますね。

山縣:なるほどね。ボランティア活動とか福祉活動の中で私たちがよく言うのは、困っている人

がいたら助けてあげたい。そういう思いで始めるのですが、結果としてボランティア活動が自分自身の成長につながるとよく言われます。人と出会って、人の気持ちを考え、それがプラスになる事も結構あります。ぜひ赤星さんのお話を心に留めていただいて、一歩踏み出してもらいたいです。

さあ、赤星さんに「ちょっとこれはどうなんですか?」「活動の中でこういう事がありましたか」 など質問してください。

男性 4: 赤星さんのお話の中で、日本は「目立つとたたかれる」社会であると申されていましたが、ボランティアをしようとするとたたかれたり、今なお活動している事でも「何、あいつ活動しているんだ」と言われる事があると思うのですが、赤星さんが自分のモチベーションを維持できるのはどのような事が原動力になっているんですか?

赤星:私の価値観では、そういう人たちの口を封じたいと思っています。車椅子の寄付活動も「おまえ、偽善活動をそんなにして、おまえはいい人になりたいのか」という発言が多くありました。当初私はショックでした。全くそんなつもりで始めていませんでしたし、「なかなか行動できない中で、1つの"きっかけ"になる」と思っていました。1年後にこの車椅子の活動の数が減ったら、どうしようと不安でした。それが今、「なんだ」みたいな事を言う人は当時に比べたら激減したと思います。私の中で、「そうさせたい。いつかそうなる時まで、やり続けてやろう」という気持ちがすごくありました。贈った先で喜んでくれる人が1人でもいれば、私の活動が良かったと思えるように変わってきました。その周りの声があまり気にならないというか、もう気にする必要もないというか、自己満足の部分もあるかもしれませんけど、喜んでくれる人が1人でもいればいいと思い始めてからですかね。

山縣: 批判される事によって、やめようと思った事はありませんか?

赤星:ありました。だけど、絶対この人たちを黙らせようと思いました。何もできないくせに、そういう事を言うな、という思いがどこかにあったので、この人たちがいつか黙るまで続けてやろうと思っていました。その気持ちが変わったのは、1回目に贈ったとき、「こんなに車椅子を必要としている方がいるんだ」と感じた時です。

女性5: 熊本地震で、被災者側からボランティアに来られたら困るという報道がありましたが、 赤星さんは贈るときに裏目に出る事が怖いと思われなかったですか。

赤星:この活動で、良く思われない事があるとお話ししましたが、何回かだけ「別に欲しくないんだよ、俺は車椅子に乗らねえ」と言われた事がありました。

山縣:直接言われた事があるんですか。

赤星:「車椅子を贈られても、これを使うつもりはない」、「自分もリハビリして、車椅子を使わずに俺は動けるようにしたいんだ」と実際に言われた事もあります。やはり希望と違う事をして

しまっているのかなと思ってしまう事はありました。実際、 熊本の地震*1に関して言えば、やっぱり現地に行かないと 分からない事っていうのは多々ありますよね。だからこっち にいて「何かしたい」と思ってする事が、向こうではそれを 必要としていないとか、向こうはそれを望んでいないってい う事であれば、そういう風になってしまうっていう事もある と思います。私は今回の熊本には行ってませんが、実は私の



両親が熊本出身で、母の実家っていうのは益城町なんです。実際に母の兄弟の家が全壊しました。 父方は市内でした。それは私からするとショッキングな事でもありましたし、実際に母や父が連絡をしようとしても、なかなか電話が繋がらなかったりとか……父と母は何か手助けに行きたい事を言っていましたが、「いや、今行ったって何もできないでしょ」と……2人が行ったところでね。 父母も70歳近いので、何ができるんだと。自分たちが行く事によって、逆に他の人たちに迷惑を掛けはしないのか話をしました。

だから、今言われたように何かを贈る事で逆効果の部分もあると思います。でもそれはそれで分かっていますが、私は、100人中99人が「いやいや、そんな事してもらわなくていいから」と思ったとしても、1人でも「ありがとう」って言ってくれる人がいるのであれば、やるべきだと思います。

もちろんさっきの話のようにうまくかみ合わないケースっていうのはあると思うんですけど、本当に欲しい人って多分いると思いますし。だけど、私はやり過ぎとか、余計な事っていうのは正直ないと思っている人間なので、やればいいと思います。

山縣:ありがとうございました。個人で考えた時に、「助けがほしい」って言う事自体が自分のプライドとか、自尊心を傷つけたりして、本当は助けが必要だけど、それを言う勇気が出せないのではないかと思います。つい逆の「要りません」と言ってしまう人もいます。

実は助けてもらう人も勇気がいるんです。「要らない」と言われても、「ああそうですか」ってい うのではなく、ゆっくり丁寧に付き合ってあげて、次出会った時にでも「どうですか」という風 に気にしているんだよというメッセージを出してあげるというのも、非常に重要な活動だと思い ます。

赤星:私も思います。私もあまり、人に「しようか」とか、「手伝おうか」とか言われるのが正 直嫌なタイプの人間でした。本当は心の中では「ちょっと協力してほしいな」って思っているんですけど、素直にそれを言えないタイプの人間だったんです。見栄を張るケースも多分あると思います。でも、そういう人ほど、心を開いたら、意外と、「ああ、そうだったんだ」っていう悩みを持った人もいると思います。

山縣:そういう人の心の壁を、ボランティア活動の中で開いてほしいと思います。赤星さんの JR 東日本勤務の際のお話しにもありましたが、建物とか環境のバリアフリーという意味だけではなくて、心の壁、心の中にあるバリアを解放していくという意味合いがあります。心を解放していくボランティア。そういう人たちのそばに寄り添うだけで意味がある。いつか何かの"きっかけ"で「しんどい」と言ってくれ



る可能性があると思うんですね。その可能性を信じてお付き合いする事が重要だと思います。

ところで、これが赤星さんの生き甲斐、エネルギーになった経験はどうですか?

赤星: 私もここまで輪が広がるとは思っていませんでした。だから、輪を広げる基金を立ち上げ、 "きっかけ"を与えられるような事を思っていましたが、そういう思いを持った人たちがたくさ んいる事がエネルギーになっています。正直この活動を続けてきて、私の想像以上でした。

だから、私も今年40歳になりまして、今のテレビに出る仕事ももちろんそうですし、野球の解説でもそうなんですけど、40歳ぐらいまでは私の中で今やっている事を一生懸命にとにかく 突っ走ってやっていこうという思いがありました。ちょうど40歳を転機に「何かちょっとまた 違った何かの形ができないかな」というのが正直あります。いろんなチャレンジをしてみたい、 いろんな事をやってみたいというのが今の私の中にあります。

でも、本当にそういう風に思わせてくれたのも、いろんな方が協力してくれて、それだけたくさんのサポートをいただいているからというのがあります。もっとね、何かまた、さっきの学生、1年生の彼みたいに明確なものは正直浮かんでいない部分はあるんですけど、これを本当に1年後、2年後ぐらいに、そういうのをしっかり何か形としてできるのではないかなと。そういうのが今の正直な気持ちです。そして今やっている事以外の部分で皆さんにまた"きっかけ"をもらった、そういう思いをもらっちゃったかなっていうのはすごくあります。

山縣:赤星さんの活動でボランティアに何かを求めていますか。これを学生に協力してほしいとか。 赤星:ここにいる全員の方が「こういう事ができないかな」という思いを持っていると仮定し、そういう事を一緒になって実行しようとする事です。発信したいですよね。だから、一緒になって考えてくれる人がいると、ありがたいです。私は野球しかやってきていない人間ですから、本当に野球を辞めてから色々な事を勉強し始めました。『ミヤネ屋』(読売テレビ)に出演しても、自分のコメントを伝えるためにはすごい情報量が必要なんですよ。政治、芸能、スポーツそして私が今まで関わっていないジャンルの事を生放送で宮根さんに聞かれます。とんでもない事を言ってしまったら、すぐネットにでます。批判のつもりではなく、一言抜けてしまった事を、自分でもショックで調べきれていなかった事に反省です。私は、今いろんな仕事をさせてもらう中でまだまだ勉強不足だなっていう事や、知らない事も多々あります。皆さんとまた今後、この対談という機会を、更に展開できればいいかなと思います。

山縣:何か協力してみたいと思う気持ちが今ある人はどれくらいいらっしゃいますか。結構いますね。先ほどの赤星さんの話で、交野市で走るだけでも、きっと応援になるんですね。

最後に赤星さんから、関大あるいは学生に対してエールやメッセージをいただけないでしょうか。 **赤星**:先ほどの話で付け加えたい事が1つだけあります。さっき「一歩踏み出す勇気だ」って言いましたよね。正直な話、一歩踏み出す勇気っていうのは簡単ではないですし、言ったからと言って、できるかどうかとか言うと、そうじゃないんですよね。

そのためには事前に準備する事もそうですし、いろいろと相手のデータを調べたりする事なんかも当然の事です。今そういう意味でもしっかり夢に向かって準備をしている期間だと思います。 唐突に何かをしようと思っても、なかなか勇気を持って一歩踏み出すのは難しいので、準備にしっかりと時間を使い、考え抜く事をしてほしいです。そうする事で、いざ行動に移すときに、思い切って自信を持って臨めるんじゃないかなと思います。

ボランティアだけではなくいろんな活動に、もし就職しても会社の中でも絶対に重要になって くると思うので、ぜひ忘れないでほしいと思います。

山縣:ありがとうございました。すでにボランティア活動に一歩踏み出している人たち、トレーニングをしっかりと積んで、活動の質を高めて下さい。まだ一歩踏み出せていない人たちはもう半歩を踏み出しています。今日この対談に参加した事で、ボランティア活動の準備が始まっていると私は思います。ぜひ、いつか、どこかのきっかけで半歩、一歩を踏み出してほしいと思います。赤星さんがメッセージを出し続け



ていただけるという事が、私たちの勇気にもなるし、「赤星さんはこんな思いで活動をしているんだ」と、ちょっとでも感じていただけたらと思います。学生たちに会いに来ていただき、ありがとうございました。

拍手を、赤星さんに。

赤星:ありがとうございました。

○司会 赤星様、山縣先生、誠にありがとうございました。私たちが普段なかなか聞く事のできない貴重なお話をお聴かせいただき、大変に有意義な時間になったと思います。改めて皆さま、盛大な拍手をお願いいたします。関西大学の学生センター所長、黒田勇より閉会のごあいさつをさせていただきます。

■閉会あいさつ

黒田 勇 氏 (関西大学学生センター 所長)

学生センター所長兼ボランティアセンターの責任者でもあります。今日は赤星さんにお越しいただいて本当にありがとうございました。一歩を踏み出す勇気なり、準備なりの必要性がありましたが、関西大学は非常にボランティア活動を行ってまいりましたが、今日さらに「ボランティア活動のハードルはそんなに高くないよ」という事のお話をいただき、本当にありがたいと思っています。



朝の阪急電車で関大生はよく、優先座席にも座っております。次の一歩を踏み出す準備をしてくれます。高齢者の方とか、ハンディキャップを持たれた方が来たら、すぐに席を譲れるように、ちゃんと席を確保してくれている。私はいつも「ありがとう」と言います。

日本社会ではよく「おもてなし」の精神などと言いますが、この時間、この空間で共に生きている人たち、相手を思いやる気持ち、それがボランティアの精神かと思っております。今日、野球のお話も交えてしていただきまして、非常にありがたいお話を聴かせていただきました。われわれも勇気を持って一歩を踏み出せるかと思っております。本日はありがとうございました。

○**司会** 本日は赤星様には本当にお忙しい中、関西大学にお越しいただき、心から感謝を申し上げます。皆様、いま一度、赤星様、そして山縣先生に大きな拍手をお願いいたします。

以上をもちまして関西大学創立 130 周年記念事業、赤星憲広氏と山縣文治教授による対談を閉会させていただきます。

- *1本対談は2016年4月16日(土)に発生した熊本地震発生後に実施したものです。 熊本地震に対する本学ボランティアセンターの取り組みについては、P.21、P.22をご参照ください。
- **2 Ring of Red 交野市チャリティマラソンは、第5回記念大会(2016年開催)をもって終了し、現在は兵庫県小野市に場所を移し、Ring of Red 小野ハーフマラソンを開催されています。

富士山清掃ボランティア ~みんなでつなげる!環境の"輪"~

日 時	2016年9月14日(水)~16日(金)
場所	山梨県 鳴沢村 焼間地区
宿泊・研修	静岡県御殿場市 国立中央青少年交流の家
参 加 費	7,000円
参 加 者	一般学生30名、学生スタッフ11名 当センター教職員(赤尾副所長、堀、村上、渡瀬) 4名
講話講師	自然ガイド組織「やまぼうし」米山 千晴 氏



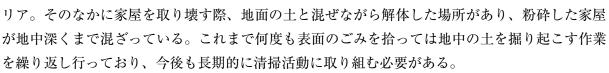
(富士山清掃ボランティア 参加者募集ポスター)

本学ボランティアセンターでは、創立 130 周年記念事業として、富士山清掃ボランティア〜みんなでつなげる!環境の"輪"〜を行った。

世界遺産にも登録されている富士山は、誰もが知る日本最高峰の山。「美しい山」として評価されている一方で、過去の負の遺産による深刻な「ごみ問題」を抱えていることもまた事実です。そこで本学ボランティアセンターでは、多くの恵みを与えてくれる富士山の雄大さを体感するとともに、「ごみ問題」と向き合うことで、今後の環境問題を考えるプログラムを実施した。

清掃活動実施前日には富士山が人間や動物に与える恵みについて考えるワークに取り組み、また、一部の業者が行ってきた富士山への不法投棄に端を発した深刻な「ごみ問題」について、現地の方からお話しいただき知識を深めるなど、富士山を取り巻く様々な環境問題について41名の参加者全員で考え、気付きを共有した。

今回清掃活動を実施した場所は、鳴沢村焼間地区というエ









活動当日は参加者全員で協力しながら地中のごみを掘り起こしては分別するという作業を繰り返し、見違えるほどきれいな状態にしました。参加者は数十年もの期間を要して立ち向かっている富士山のごみ問題に実際に触れ肌で感じることで、日本全体が直面している環境問題について考えるきっかけとなった。

行程表

実施日	時刻	内 容
9月14日	8:00	関西大学千里山キャンパス集合
	8:10	関西大学千里山キャンパス出発(バス)
	15:00	富士山御殿場口 散策、記念撮影
	16:30	国立中央青少年交流の家到着
		オリエンテーション、チェックイン
	17:00	タベの集い(宿泊者同士の交流会)~17:30
	18:00	夕食(バイキング形式)
	19:00	アイスブレイク(サークル自己紹介)
	19:20	みんなで考える!環境ワーク「あなたの、みんなの知っている 富士山!」 場所:国立中央青少年交流の家 研修館「富士」研修室 担当:ボランティアセンター職員 村上 内容:富士山に係るマインドマップの作成
	20:00	講 話:「富士山の恵みについて」 講話講師:自然ガイド組織「やまぼうし」米山 千晴 氏
	21:00	風呂・自由時間
	23:00	就寝
9月15日	7:00	朝礼 ※濃霧のため全体の朝礼は中止、本学参加者のみで実施
	7:15	2日目の行程説明
	7:30	朝食 (~8:20)
	8:50	ロビー集合
	9:00	チェックアウト、富士山クラブもりの学校に向けて出発
	10:00	富士山クラブもりの学校到着
	10:15	富士山クラブからのオリエンテーション(事前学習会)
	11:05	昼食
	11:45	ゴミ拾い場所(青木ヶ原樹海)に移動
	12:15	清掃活動
	14:30	清掃活動終了、もりの学校へ移動
	15:10	活動のふりかえり・意見交換会(於 もりの学校)
	16:00	記念撮影
	18:00	現地出発
	19:00	夕食 (サービスエリア等)
	21:00	温泉にて入浴
	22:00	大阪に向けて出発
9月16日	6:00	J R京都駅到着
	7:00	J R 大阪駅到着
	8:00	関西大学千里山キャンパス到着
	8:20	解散

参加者の声

・ゴミを捨てることは簡単だけど、拾い直すことはとても大変だということを知りました。ゴミ 問題について考えることができるようになりました。 (社会・2年次生) ・ゴミが不法投棄されている事実や実情を知れただけでも大きな収穫でした。

"誰かが拾えば良い"という考え方が嫌で、この経験を通して更に「誰かが拾えば良いと思わず大阪に帰ってもポイ捨てされているゴミを拾っていこう」と思いました。(法・2年次生)

ボランティアコミュニティ "kizuki" 発足会

「"kizuki" の第1歩! ~みんなの " 気づき " を " 繋げて " ワクワクを~」

日	時	2017年 2 月12日(日)13:30~15:30
場	所	関西大学梅田キャンパス 4 階 MeRISEラボ
参 加	者	岡本ボランティアセンター長、松村学生センター副所長、中塚局長、鈴木次長、 堀グループ長、村上、渡瀬 学生スタッフ卒業生 3名 学生スタッフ 26名

当センターでは、本学創立 130 周年記念事業の一環としてボランティアコミュニティ "kizuki (きずき)" (以下 "kizuki" とする)を結成した。"kizuki" の結成目的は、「コミュニティ会員相互の親睦や本学でボランティア活動を行う学生と会員との交流を促進し、関西大学ボランティアセンターの活動の発展及び支援に寄与すること」であり、現役大学生と社会







無理なく楽しめる「ワクワク」が詰まった場の創出をねらいとしている。コミュニティ名 "kizuki" の由来は、ボランティアを通した様々な気づきを経て、活動に参加した仲間たちと関係性を「築いていく」ことを大切にしたいという想いから"ki「zu」ki"という名称にした。

当日のタイムスケジュール

13:30 開会の挨拶【岡本 哲和 ボランティアセンター長】

13:35 会食開始

13:35 ボランティアコミュニティ "kizuki" 趣旨説明

13:45 ボランティアセンター時間旅行~あの日あの時あの場所で~

14:00 アイスブレイク

14:10 自己紹介タイム

14:20 ワーク (仲間とは○○だ!! ※グループ分けをして話合い)

15:20 閉会の挨拶【松村 吉信 学生センター副所長】

15:30 閉会

熊本地震被災地支援活動について

2016年4月14日に、熊本県熊本地方を震源とする地震が発生し、その2日後の4月16日にも、同じく熊本県熊本地方を震源とする地震(本震)が発生し、西原村と益城町では震度7を観測した。この事態を受け、当センター職員・学生スタッフで「自分たちにできることはないか」ということを連日話し合い、その結果として「被災された方々に対する義援金の募集活動」及び「SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス ※以下「SNS」とする)を通じ「被災された方々の元に応援メッセージを届ける」という2つの取り組みを行った。

義援金募集箱設置

期間	5月9日(月)~5月20日(金)
設置場所	本学学内 全17カ所 ①関西大学会館受付、②高中幼事務室、③社会連携部、④国際部、⑤教務センター、 ⑥総合情報学部オフィス、⑦*1 高槻ミューズキャンパス西門、⑧堺キャンパス事務室、 ⑨ボランティアセンター、⑪スポーツ振興グループ、⑪保健管理センター、 ⑫キャリアセンター、⑬図書館事務室、⑭博物館、⑮校友会、⑯教育後援会、 ⑪*2 北陽中学校・北陽高等学校 ※1 高槻ミューズキャンパスでは西門に義援金箱を設置 ※2 北陽中学校・北陽高等学校については、生徒会活動の一環として実施

義援金募集活動

日		時	5月15日(日)~5月20日(金)
場		所	関西大学千里山キャンパス 正門前、総合図書館前、第2学舎4号館BIGホール100前、 関西大学校友父母会館前
参	加	者	延べ138名

本活動は、5月9日から20日までの間、被災された方々へ支援を行うため学内各オフィス(千里山・高槻・高槻ミューズ・堺の各キャンパス)等に義援金箱を設置することにより、義援金の募集を行った。また、5月15日から20日までの間、本学総合図書館前にて、学生有志が義援金

箱を持ちキャンパス内を往来する人に義援金募集の呼びかけを行った。教育後援会総会(5月15日)には教育後援会執行部役員の方々と共に義援金募集活動を行うなど、本活動により集まった義援金の総額は971,974円となった。

6月2日には、本学関係者が日本赤十字社大阪府支部を訪



問し、義援金目録贈呈 式を挙行した。木谷普



市副学長から日本赤十字社大阪府支部事務局長の服部道代氏に目録が贈答された。代表学生として式に出席した学生らは、「誰もが被災地や被災された方々のために何かしたいと思っていて、義援金にはその気持ちが込められている。役に立てたら嬉しい」と、一日も早い復興を願いつつ、思いを語った。

義援金募集箱設置・義援金募集活動の結果

1 設置義援金箱(5月9日~5月20日) 109.985円

※なお、北陽中学校・北陽高等学校については、生徒会活動の一環として取り組んでいる 関係上、今回の報告には含んでいない。

- 2 ボランティアセンターが学生スタッフと学生有志、そして教育後援会執行部役員の方々と 共に行った義援金募集活動 ※教育後援会総会(5月15日) 805.773 円
- 3 ボランティアセンターが学生スタッフと学生有志で行った義援金募集活動 千里山キャンパス正門と図書館前(お昼休み)(5月16日~5月20日) 創立130周年記念事業「赤星憲広氏と山縣教授による対談」受付時(5月20日) 56,216円

【合計 971,974 円】

みんなの気持ちを届けようプロジェクト~熊本地震で被災されたみなさまへ~

当センターでは、5月16日(月)から5月20日(金)までの期間に義援金募集活動と並行して「みんなの気持ちを届けようプロジェクト」を実施した。

これは、「被災された地域の方々に関西大学から"応援メッセージ"を届けることで、少しでも 心の支えになりたい」という本学学生の思いを受け、本学学生や教職員に応援メッセージを書い

てもらい、その思いをまとめて、ボランティアセンターのホームページや SNS 等を通じて発信した。活動前は「どれくらいの方から応援メッセージをいただけるだろう」と多くの学生スタッフから不安の声が聞こえたが、いざ活動を行うと「私もメッセージを届けたい」という声が相次ぎ、最終的には 70 名以上の方が積極的に活動に協力した。この活動を通じ「ご協力いただいた方々と被災地の方々」を"繋ぐ"ことで、被災された地域の方々の心の支えになることを願った。



(みんなの気持ちを届けようプロジェクトで 使用した応援メッセージ 用紙)

3 環境保全活動及び連携事業

活動イメージ



























1 環境 ~ 淀川掃除ボランティア~ (ボランティア体験ツアー) 【P.43・P.61 参照】

2007年5月11日に市民団体である、淀川掃除に学ぶ会の会長が来室され、同会が毎月第1日曜日に実施している淀川掃除のボランティア募集協力依頼を受けた。かねてからボランティア体験ツアーの実施を検討していた学生スタッフが2007年8月4日、ボランティアセンター職員と共に活動に参加し、これを一般学生に対して行う「ボランティア体験ツアー」と位置づけ、以後継続して実施している。





参加者数は、2017年3月には累計およそ6,700名となった。 関大生にとって「気軽にできるボランティア」として親しみ のある活動として定着している。2011年1月21日には、ボ ランティアセンター学生スタッフが国土交通省近畿地方整備 局淀川河川事務所長より「淀川サポーター」として認定され た。淀川サポーターとは、淀川サポート制度の下、淀川河川 事務所が管理する一定区間で活動していること、且つ定期的

に環境保全整備活動を行っている団体に対して認定される制度である。また、この認定を受けた

こと、本事業が2011年度で5年目を迎えた記念として、この年から本学と連携協定を締結しているミズノ株式会社及び体育会本部等の協力を得て「淀川大掃除〜みんなの力で輝く淀川〜」を開催しており、2016年度は6回目を行った。当日は、約600名が参加し、社会人の方や併設校の生徒も参加し、普段かかわることのないたくさんの方と関わる機会になり、参加者にとってよい経験となった。



2 連携 奈良県明日香村・関西大学地域連携事業

(1) 明日香村景観事業【飛鳥川清掃・山桜植栽事業】(ボランティア体験ツアー)【P.62 参照】

明日香村は、数々の日本の歴史的遺産を保有する地域であり、関西大学は、1972年の高松塚古墳の発掘に故・網干名誉教授(明日香村名誉村民)など、明日香村と長きにわたり親密な関係を築いている。そして、2006年、あらためて地域連携に関する包括協定を結ぶに至った。

2006年、明日香村は村制50周年を迎えるに当たり、2006年11月から3年計画で明日香村村制50周年記念「花桃」記念植栽を地域連携事業の一環として行ってきた。この事業は2008年度で終了したが、継続的な事業として本学と連携を深め、学生ボランティアの依頼を



受けすでに9年間が経過し、明日香村の中心を流れる飛鳥川一斉清掃や、川沿いの草刈りなど数々の連携事業に参加してきた。2016年度は、飛鳥川清掃「景観ボランティア in 明日香村」に一般学生1名、学生スタッフ6名が参加し、地域との連携の一端を担うボランティア活動を行った。

(2) 飛鳥光の回廊 (ボランティア体験ツアー) 【P.51 参照】

明日香村との連携事業の一環として、明日香村が毎年開催 している「飛鳥光の回廊」に、新たに学生ボランティアの協力を仰ぎたい旨、本学の社会連携センターを通じて依頼があり、2011年度より本事業に参加している。

初年度は、当日のみ参加し、明日香村の方が予め考案した デザイン図を基に、灯篭を並べ点火する形であったが、2012 年度より、企画の段階から学生が本事業にかかわり、明日



香村の方と一緒に灯篭デザイン図を考える形に変更し、よりやりがいや達成感が感じられる活動になった。

本年度は8月27日(土)、28日(日)に開催され、一般学生32名、学生スタッフ34名がボランティ



アとして参加した。今年の地上絵は、国営飛鳥歴史公園「キトラ古墳周辺地区」が開園することを記念し、キトラ古墳に壁画として描かれていたことで知られる"四神"がテーマであった。本学生は石舞台古墳周辺を飾る灯篭のデザインの制作、配置、ろうそくの点火などを担当した。石舞台古墳では四神が司る季節を表したデザインの地上絵が美しく輝いた。

3 連携 大阪府・高槻市・NPO法人芥川倶楽部との連携事業 【P.56 参照】

(1) アユの産卵場所の整備活動 (ボランティア体験ツアー)

2011 年度より、大阪府及び高槻市からの紹介で、NPO 法人芥川倶楽部の活動である「アユの

産卵場所の整備活動」に学生スタッフが参加している。

本事業は、講師にアユの生態系や産卵場所の整備について詳しく説明していただき、環境問題について考えるよい機会となることから、学生スタッフ企画の「ボランティア体験ツアー」として実施している。当日(10月22日)は、一般学生3名、学生スタッフ8名がボランティアとして参加し、胴長靴を履いて川に入り、スコップやトンボなどでアユが産卵する場所の整備を行った。



(2) **摂津峡クリーンアップボランティア** (ボランティア体験ツアー)【P.50 参照】



ボランティアセンター学生スタッフは、高槻市の職員や高 槻市社会福祉協議会と定期的にボランティアニーズに係る打 合せを実施している。打合せ会の場で高槻市が2013年度か ら「クリーン&マナーアップ事業」として摂津峡公園周辺の 清掃・啓発活動を実施していることを知り、ボランティア体 験ツアーとして参画することとなった。

当日(8月21日)は、摂津峡公園から上流に向かって清

掃活動を行うと同時に来訪者に啓発チラシを配布し、ごみの持ち帰りについて協力を促した。川 遊びやバーベキュー等のレジャーで出たゴミが大量にあったため、ごみの除去は大変であったが、 直接自然に触れながら清掃活動を実施したことにより環境保護の意識を高める良い機会となった。

4 エコキャップ運動

身近なことからできる環境保護・国際協力活動として、 2008年7月からエコキャップ運動を開始した。

エコキャップ運動は、NPO法人「e-kotonet」などが中心となり行っている活動で、現在は一般社団法人イーコトキャップが回収を行っている。エコキャップ運動協賛企業がペットボトルキャップを回収し、リサイクルすることによって得た利益(キャップ 400 個で 10 円)を認定 NPO 法人「世



界の子どもにワクチンを日本委員会」へ寄付するというものである。

認定 NPO 法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」への寄付金は、20 円につき 1 人分のワクチンが支援先の子どもたちに送られる。

5 連携 大阪家庭裁判所との連携事業

大阪家庭少年友の会学生ボランティアプログラム

大阪家庭裁判所において行われている、「試験観察中の非行少年への学習指導」ボランティアプログラムである。本年度で11年目を迎えた。活動している学生たちは、大阪家庭少年友の会や家庭裁判所調査官の方々、そして実際に担当した少年たちからの評判もよく、真摯に活動に取り組んでいる。ボランティアセンターとしても、学生にとって有意義なこの活動を今後も支援していきたい。

2006年度	9名
2007年度	16名
2008年度	14名
2009年度	17名
2010年度	14名
2011年度	19名
2012年度	16名
2013年度	17名
2014年度	15名
2015年度	15名
2016年度	13名
	•

<活動までの流れ>

- ①ボランティアセンターが法学部 (裁判所関連)、社会学部 (心理学関連)、政策創造学部 (社会福祉関連)、大学院心理学研究科などの教員への協力依頼。
- ②教員の推薦書を持参した学生を推薦。
- ③登録した学生への大阪家庭裁判所調査官等による研修。(活動中の悩みなども随時担当調査官に相談可)
- ④少年の都合に合わせ活動日を決定。

【大阪家庭少年友の会との行事】

5月18日	7月8日	10月27日	2 月24日
大阪家庭裁判所にて オリエンテーション (学生8名)	関西大学にて 学生ボランティア情報交 換会(学生5名)	大阪家庭裁判所にて オリエンテーション (学生 4 名) ※追加募集の学生対象	プリムローズ大阪にて 活動報告会 (学生9名)
参加者全員の自己紹介を した後、調査官より試験 観察制度・少年審判・学 習指導等についての説明 を受け、裁判所庁内を見 学した。	参加者全員の自己紹介をした後、今年度の活動状況を確認し、昨年度から引き続き活動している学生への質疑応答を行った。	参加者全員の自己紹介を した後、調査官より試験 観察制度・少年審判・学 習指導等についての説明 を受け、裁判所庁内を見 学した。	参加者全員が自己紹介を し、試験観察中の少年、 少女の学習指導を行った 上での問題点等、調習指 を交えて今後の学習指 方法について、意見交換 を行った。

<大阪家庭少年友の会より学生ボランティアへの感想>

指導回数:4回(中3担当)

学生は褒め上手で指示が明確で分かりやすかった。少年は男性が苦手だったが、きちんと少年から挨拶していた。柔らかい雰囲気で、友達活動もしてくれてよかった。

指導回数:5回(中3担当)

少年のことをよく見て、少年のために時間を使ってくれたことについて、少年は今はしてもらったことを恩だと思っていないが、いつか分かる時がくる。人からしてもらったことは、自分も人にしようと思うようになるし、 学習指導は少年のためになったと考える。

指導回数:3回(中3担当)

うまく人とコミュニケーションがとれない少年だった。丁寧に時間をかけて教えると理解できるが、あまりそういった機会がない。勉強が分からないのは機会がなかっただけである。学生ボランティアの学習指導は少年にとっては貴重な経験になったと考える。

<大阪家庭少年友の会からの総括コメント>

少年が学習指導を受ける意味は、①学習支援、②人として普通に接してもらう、の2つであると考えている。 ①については、1回のみの指導でも意味があると思う。丁寧に教えてもらう機会がない環境で生きている少年が 多い。②について、意外と「普通」は難しい。家庭環境がよくない少年が多く、人として普通に接してもらうことは少年にとって貴重な機会である。

<活動をしていた学生ボランティアの感想>

指導回数:1回(中3担当)

学習を始める前に雑談し、その後、漢字やことわざ、なぜそのことわざが生まれたのか等の豆知識を伝え、勉強に入った。勉強自体に興味を持ってもらえるように工夫した。以前に教えたことを少年が覚えてくれていたことが嬉かった。

指導回数:1回(中3担当)

普段目標がなく、なんとなく過ごしていると聞いたので、目標を設定してもらった。理解力が高く、応用力もある少年だった。また、10分間スピーチをして話す力もつけてもらった。少年から直接お礼を言われたことがうれしかった。

指導回数:1回(高1担当)

その場だけでも勉強が楽しくなるように工夫した。雑談が盛り上がりすぎて、「勉強もういいや」と少年から言われたことがあったので、メリハリをつけることを心がけた。学習指導が勉強に取り組むきっかけになっていればいいなと思う。

指導回数:1回(中3担当)

学習する気がないと聞いていたので、ほとんど雑談で終わったが、少年は将来について自ら話していた。どうしてボランティアで指導に来ているのか不思議そうだった。

【後日談】少年は調査官との面談に来ないことが多かったが、ボランティアにはきちんと参加していた。学生か

らの学習指導を受け、お金をもらわずに人のために何かをするボランティアというものがあることを知り、ボランティアをする人のことを不思議に思ったことがきっかけで、少年はボランティアに参加したようだ。

指導回数:1回(中3担当)

目を見て話してくれず、雑談はできなかった。計算力のある少年だった。勉強は頑張っていたが、雑談したり楽しくできなかったことが心残りだ。

指導回数:3回(中3担当)

演習を見守るような形で進めた。少年が人見知りだと聞いていたが、2回目からは勉強の苦手なところを自分から話してくれてうれしかった。最後に少年からお礼を言われたこともうれしかった。

4 堺市との地域連携事業におけるボランティア活動(事務局: 堺キャンパス事務室)

堺キャンパスのある堺市と関西大学は2008年に基本協定を締結しており、大学の教育研究活動と地域資源を融合した連携事業を実施している。その中で人間健康学部の学生は、堺市の小中学校に出向いて児童生徒の運動促進を図る取り組みに協力したり、地域の子どもたちを対象にスポーツ企画を運営するなど、講義だけでは学べない経験を積み、より大きく成長している。また、関西大学が取り組む教育研究活動の成果を社会に還元し、地域が抱える諸課題の解決に寄与する



住吉祭神輿渡御学牛ボランティア

こともめざしている。2016年度は以下の事業にボランティアとして参加した。

事業名	開催日	時間	内容	講師	ボランティア 学生数 (行事参加者数)	会場
堺市民対象 ソフトボール	9:30 ~ 11:30 5/22 (日)	9:30 ~ 11:30	支援学級中学生 ソフトボール 交流教室	関西大学 人間健康学部教授 小田 伸生	25 名 (7 名)	関西大学 堺キャンパス
スクール	- / - · (A/	13:00 ~ 15:30	女子中学生対象 ソフトボール教室	関西大学 体育会 ソフトボール部監督 吉末 和也	25 名 (56 名)	Evergreen
住吉祭神輿渡御 ボランティア 2016	8/1 (月)	13:00 ~ 20:00	住吉祭神輿渡御 ボランティア	_	122 名	大和川~ 住吉大社 宿院頓宮
	4/15(金)	15:30 ~ 18:00			2名	
	4/22(金)	13:30 ~ 16:30			2名	
	5/20(金)	15:30 ~ 18:00			2名	
	5/27(金)	15:00 ~ 17:30			1名	
	6/3 (金)	15:30 ~ 17:30			2名	- 三国丘中学校
	6/10(金)	15:30 ~ 18:00			3名	
	7/1(金)	13:30 ~ 16:30			2名	
	7/8(金)	15:30 ~ 18:00		三国丘中学校 トッカー部での サポート 体育会サッカー部 所属 人間健康学部生	2名	
	7 / 15 (金)	14:00 ~ 16:30			2名	
	10/14(金)	13:30 ~ 16:00			2名	
人間健康学部	10/21(金)	15:30 ~ 17:00			2名	
学生ボランティア ネットワーク	10/28(金)	15:30 ~ 18:00			2名	
1.51.5	11/4 (金)	15:30 ~ 17:15			2名	
	11/11(金)	15:15 ~ 17:15			1名	
	1/27(金)	15 : 30 ∼ 17 : 15			2名	
	2/3(金)	15 : 30 ∼ 18 : 00			2名	
	2/10(金)	15 : 30 ∼ 18 : 00			1名	
	3/3(金)	13:30 ~ 16:30			2名	
	3/10(金)	15 : 30 ∼ 18 : 00			2名	
	3/17(金)	13:30 ~ 16:00			1名	
	11/13 (日)	9:00~11:30	スポーツ大会	人間健康学部生	10 名 (25 名)	関西大学 堺キャンパス 体育館アリーナ
			「スクールサポーター」		2名	上野芝小学校
亚代00 (0040) 左京	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		として堺市内の体力 向上重点校で、 レクレーションや 体育授業、クラブ	_	4名	榎小学校
平成28 (2016) 年度 体力向上推進事業		_			5名	福田小学校
					3名	三原台小学校
			活動等を補助		3名	三原台中学校

堺市と関西大学との地域連携事業は、関西大学の地域貢献協力資金により運営されており、 2010年度から開始され、2016年度で7年目を迎えている。

5 学生スタッフ育成プログラム

ボランティアセンターでは、「ボランティアセンター職員と共にセンターの運営事業に携わり、 学生目線から学生のボランティア参加のきっかけ作りを行う」ことを理念とする学生スタッフを置いている。

ボランティアセンター職員は、学生スタッフが主体的に企画・運営ができるようにさまざまな 支援を行っている。また、学生スタッフは関大生にボランティア情報の紹介するために、研修及 び活動調査の一環として「ボランティア体験隊」を実施している。

以下は、当センターが実施しているプログラムである。

1 ボランティアセンター学生スタッフガイダンス

学生スタッフになりたいという学生に対して、職員が50分程度のガイダンスを行った。内容としては、ボランティア活動支援グループの位置づけ、クラブ・サークルとの違い、大学からの支援が手厚いこと、自分たちがボランティア活動に参加するだけの団体ではなくボランティアの魅力を発信する団体であることなどを中心に、ボランティアに関する諸注意や学生団体の運営についてのアドバイスを行った。

2 ボランティアセンター学生スタッフ養成講座

2015年度から2016年度にかけてボランティアセンター学生スタッフ登録者数が増加したこともあり、ボランティアセンターでは学生スタッフ自身のスキルアップを目指した研修にも力を入れている。

第1回では、ボランティアコーディネートを行う上で欠か せない「傾聴」のテクニックについて学ぶ機会を設け、実践 形式で理解を深めた。

第2回では、養成合宿前にボランティアセンターでの半年間の活動を振り返りながら、「自分新聞」を作成した。その記事を学生スタッフ同士で披露し合い、互いの成長を確認する機会となった。

第3回は、シチズンシップ共育企画 代表の川中 大輔 氏を 講師にお招きし、組織運営において非常に重要な「情報共有」のコツや、有意義な会議を行うための心構えについて、またリーダーシップを持つことの重要性について、ご教授いただいた。





		コーディネート講座
日	時	第1回 2016年6月23日 (木)
		18:00~19:30
場	所	千里山キャンパス 第2学舎 2号館 C401教室
講	師	ボランティア活動支援グループ 村上 翔也
内	容	傾聴力の養成及びボランティアコーディネートの実践練習

		養成合宿(夏)前の活動振り返り講座
日	時	第 2 回 2016年 8 月30日(火)
		10:00~13:00
場	所	千里山キャンパス 第2学舎 2号館 C301教室
講	師	ボランティア活動支援グループ 村上 翔也
内	容	活動の振り返り(2016年4月~8月) 半年間を振り返って「自分新聞」を作成する

		養成合宿(春)前の活動振り返り講座
日	時	第3回 2017年3月7日(火)
		午前の部9:00~12:30、午後の部13:30~16:00
場	所	千里山キャンパス 第2学舎 2号館 C204教室
講	師	午前:シチズンシップ共育企画 川中 大輔 氏 午後:ボランティア活動支援グループ 村上 翔也
内	容	午前:①情報共有のコツについて ②会議に参加する上での心構えについて ③リーダーシップを持つことの大切さについて 午後:活動の振り返り(2016年9月~2017年3月)

3 ボランティアセンター学生スタッフ養成合宿(於:飛鳥文化研究所) 【P.54·P.62 参照】

9月6日(火)~7日(水)に、奈良県の飛鳥文化研究所にて夏の養成合宿を実施した。赤尾勝己副所長、当センターからは堀グループ長、村上及び渡瀬が参加し、学生スタッフは44名が参加した。合宿では、「一人ひとりが学生スタッフとしての意識を持ち、全員でボランティアセンターを作り上げていくにはどうすれば良いか」について話し合った。合宿班が考えた様々なワークを通じ、参加者は「自身が学生スタッ



フ活動の当事者である」ことを再認識し、今後の活動への意欲を高める良い機会となった。

春の養成合宿は、3月9日(木)~10日(金)に飛鳥文化研究所で実施した。松村吉信副所長、当センターからは、堀グループ長、村上及び渡瀬が参加し、学生スタッフは33名参加した。合宿では、「ボランティアセンター学生スタッフがより活発な団体へと成長していくように①自分を見つめなおす、②相手の立場になって考える、③ボランティアの必要性を考える」ということを目的に実施し、熱く意見を交わした。

4 ボランティアセンター・学生スタッフ代表者及び グループリーダーとのミーティング

学生スタッフへの日常的な支援として、月に1回程度職員 と代表者がミーティングを行っている。企画準備の進捗状況 や団体運営についての相談が中心ではあるが、職員と学生 スタッフのコミュニケーションの場にもなっている。代表者と話し合うことで、その時点の学生 スタッフ全体の強みや弱みを知り、学生スタッフが団体として成長していけるよう支援している。 また、学生スタッフは5つの班に分かれて活動していることから、各班の間での情報共有の場と して機能するように、職員を交えてグループリーダーとのミーティングを行った。

5 ボランティアセンター学生スタッフによる「ボランティア体験隊」

学生スタッフの活動の目的である「ボランティアセンター職員と共にセンターの運営事業に携わり、学生目線から学生のボランティア参加のきっかけ作りを行う」ために、当センター職員から「まず自分たちがさまざまなボランティア活動に携わることが重要である」と学生スタッフに働きかけたことを機に2010年から実施している。本企画は、①学生スタッフが自らの体験を基に関大生にボランティアの楽しさ、やりがいを伝えること、②ボランティア募集団体代表者または担当者にお話しを伺い、関大生の活動状況を調査することを目的に行った。

6 ボランティアセンター学生スタッフ活動報告会

活動報告会では、2016年度の学生スタッフの取り組みについて代表・副代表及び各班リーダーが報告し、教職員との意見交換(学生スタッフに期待すること等)、及び4年次生の4年間の活動の振り返りを行った。

また、各班の発表内容を受けて松村副所長より講評を頂いた。本報告会へは、昨年度より発表者に加え共に活動に取り組んできた1・2年次生も出席した。各班リーダーは成果及



び課題を報告し、1年間の活動を振り返った。講評で頂戴したご意見については、学生スタッフ 内で共有して次年度の活動に繋げることとした。

B	時	2017年 3 月14日(火)	
П		14:30~16:30	
場	所	総合学生会館 凜風館4階 ミーティングルーム	
出席	者	岡本所長・松村副所長・加納社会学部教授・中塚学生サービス事務局長・ 鈴木学生サービス事務局次長・堀ボランティア活動支援グループ長 ボランティアセンター職員(村上、渡瀬、横矢) 学生スタッフ代表・副代表 各班リーダー・ボランティアセンター学生スタッフ	

6 各種講座・講演会

ボランティアセンターでは、ボランティアに関わるきっかけ作りとしての講座やコミュニケーション能力の向上のための講座などを実施している。

* * * * * * * 講座日程表 * * * * * * *

月	日	時 間	講座名		
	11	12:20~12:55	ボランティアセミナー in 堺キャンパス		
	18	12:20~13:50	ボランティアセミナー in 高槻ミューズキャンパス		
4	22	18:00~19:30	ボランティアセミナー in 千里山キャンパス		
	27	14:40~16:10	ボランティアセミナー in 高槻キャンパス		
	28	18:00~19:30	災害ボランティアガイダンス		
5	20	18:00~19:30	関西大学創立130周年記念事業 「赤星憲広氏と山縣文治教授による対談」 〜走った数をみんなの笑顔に〜赤星流☆ジボランティアのススメ〜		
7	8	18:00~19:30	テーマ別講座「レクリエーション講座」 〜楽しくなる"魔法"のかけ方♪〜		
	4	10:00~12:00	「みんなで考える!環境ミーティング!」 第1部 環境講座		
	5	18:10~19:40	学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー 〜コミュニケーションスキルアップ講座〜①		
12	12	18:10~19:40	学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー 〜コミュニケーションスキルアップ講座〜②		
	19	18:10~19:40	学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー 〜コミュニケーションスキルアップ講座〜③		
	13	18:00~19:30	テーマ別講座「学習支援」って何だろう? ~子どもの学びをサポートしよう!~		



* * * * 各種講座·講演会 * * * *

1 ボランティアセミナー ~はじめよう!ボランティア~

ボランティアに関心のある学生やボランティアに参加したことがない学生に対して、活動へのやりがいや楽しさを伝え、活動に対する不安や疑問を解消させることでボランティア活動への参加を促すこと、また、学生にボランティアセンターを気軽に利用してもらうために、ボランティアセンターで受けられるサービス等についての紹介を行うことを目的に開催した。





講師からボランティアの種類、活動内容などを幅広く紹介していただき、講師ご自身のエピソードも交えながらお話しいただいたことにより、参加学生にとって自分事として捉えやすい内容であったと思われる。参加した学生はメモを取ったり、セミナー終了後に講師に質問をするなど、ボランティア活動に興味を抱いている様子が伺えた。

キャンパフ	千里山	高槻ミューズ	堺	高槻
	4月22日(金)	4月18日(月)	4月11日(月)	4月27日(水)
日 	18:00~19:30	12:20~13:50	12:15~12:55	14:40~16:10
場 原	第2学舎C304教室	M702教室	SA301教室	K棟1階 ギャラリー
講館	社会福祉法人 大阪ボランティア協会 梅田 純平 氏		ボランティア センター職員	社会福祉法人 大阪ボランティア協会 椋木 美緒 氏
受講者数	21名	8名	10名	9名

【受講者の声】

- ・何か新しいことを始めてみたいと思いボランティアセミナーに参加しました。自分が思っていたより様々な種類のボランティアがあることがわかりました。これからはボランティアに参加していこうと思いました。 (人間健康・2年次生)
- ・ボランティアを始めるきっかけは思っていた以上に多様だと思いました。 (社会・3年次生)

2 災害ボランティアガイダンス

連休や夏季休暇を利用して、熊本や復興途上にある東北などの被災地へ災害ボランティアに行くことを検討している学生や災害ボランティアに興味がある学生が、「災害ボランティア」活動に対する意識と、身体的、精神的な安全確保の意識を高めるとともに、十分な情報を得たうえでより良い意思決



定が行えるようにすることを目的に実施した。熊本地震発生直後ということもあり、災害ボランティアに興味を持っている学生が例年より多く、昨年度から参加者が増加した。今回のガイダンスでは、熊本と東北の現状説明や最新のボランティア活動状況、梅田氏の体験談、災害ボランティアに行く際の服装や持ち物、宿泊場所を自分で確保しなければならないこと、食事のことなど具体的に説明していただき、学生にもわかりやすい内容だったと考える。また、災害ボランティアに行くことが決まった際の学内手続きについても周知した。

日 時	4月28日(木)18:00~19:30
場所	千里山キャンパス 凜風館4階ミーティングルーム 2 高槻・高槻ミューズ・堺各キャンパスにおいてはWeb中継にて実施
講 師	社会福祉法人 大阪ボランティア協会 梅田 純平 氏
受講者数	千里山44名・高槻 3 名・ミューズ 1 名・堺10名 合計58名

【受講者の声】

- ・以前、個人的に東日本大震災の復興ボランティアに参加し、災害ボランティアに興味を持ったため参加しました。「ボランティアに頼るのは最後」という言葉がとても印象的でした。ボランティアに行く側と被災した側の気持ちにギャップがあるかもしれないということは、ボランティアに参加するにあたって覚えておかないといけないと思いました。 (人間健康・3年次生)
- ・震災が及ぼす痛みとメディアでは伝えられていない実状、本当に求める力などさまざまなことを考えさせられる時間だった。今の自分にできることは限られているけれど、力になれる限り力をつくしたいと思います。 (文・2年次生)
- 3 関西大学創立 130 周年記念事業講演会
 - -赤星憲広氏と山縣文治教授による対談-

「走った数をみんなの笑顔に」~赤星流☆彡ボランティアのススメ~



(2. 関西大学創立 130 周年記念事業 P6 以下参照)

2016 年度に本学が130 周年を迎えることを記念し、本講演会を実施することとなった。ボランティアへの興味・関心を抱くきっかけは人それぞれであるが、今まで「ボランティア」に対して「自分とは関係ない」と思っている人にもボランティアの魅力を知ってもらいたいという想いから球界のスーパースターであり、且つ各方面で多大なる活躍をされて



いる元阪神タイガース選手の赤星憲広氏にご登壇いただくこととなった。また、本講演会は本学ボランティア連絡協議会の委員である山縣文治人間健康学部教授も登壇し、赤星氏と山縣教授の対談という形で開催した。対談では赤星氏が車いすの寄贈をはじめたきっかけや活動を継続した理由、また活動をはじめる前と後での周りの人の"変化"についてお話しいただいた。「迷ったときこそ一歩を踏み出そう。そのためには事前準備が必要。準備にしっかり時間を使い考え抜く事をしてほしい。」といった赤星氏の数々のメッセージを受け取った参加者からは、「著名な方のボランティアへのきっかけを聞けてよかった。悩んだら行動しようという姿勢は、とても自分の心に響きました。」といった回答が多数寄せられ、非常に多くの方にボランティアの魅力を知っ

てもらう機会となったことが窺える。

日	時	2016年 5 月20日(金)18:00~19:30		
場	所	関西大学千里山キャンパス 第2学舎 4号館 BIGホール100		
対 談	者	赤星 憲広 氏 【元阪神タイガース選手、現野球解説者】 山縣 文治 教授 【本学人間健康学部】		
受講者	数	約600名		
内	容	・赤星氏が行われていた活動について・車いすを寄贈されるに至ったきっかけと、寄贈を継続した理由について・社会に貢献することの意義について・活動前と活動後におけるチームメイト等、周りの人の変化について 等		

4 ボランティアセンター・テーマ別講座 「レクリエーション講座」〜楽しくなる"魔法"のかけ方♪〜

本講座は、現在こどもに関わるボランティアに携わっている学生はもちろん、これから活動してみようという学生、また子ども以外でも人と人とを繋ぐ役割を担う学生に「レクリエーションとは何か」について学ぶ機会を提供し、様々な"遊び"を体験することで、レクリエーションの幅を広げてもらうことを目的として開催した。

ボランティア活動では、子どもと関わる機会が多いものの、楽しんでもらうために何かしようと思っても、咄嗟に対応することは困難である。レクリエーションは非常にシンプルで、誰でも参加でき楽しめるものでありながら、実はとても奥の深いものである。初対面の人同士が顔を合わせることが多いボランティア活動において、始めにレクリエーションを行うと、まるで魔法をかけたように参加者同士が打ち解け、楽しくなることができる。本講座を受講して様々なレクリエーションの引き出しを手に入れた学生には、是非ボランティア活動の現場で実践して、楽しくする"魔法"をかけて欲しいと思う。

日 時	2016年7月8日(金)18:00~19:30
場所	千里山キャンパス 第2学舎 3号館 D302 教室
講 師	本学 人間健康学部 涌井 忠昭 教授
受講者数	22名

【受講者の声】

- ・老若男女に対して使えて知っておくととても便利です。夏休みにボランティアで子どもたちとふれあうのでぜひ使ってみたいです。 (化学生命工・1年次生)
- ・子どもたちやお年寄りの方と、大掛かりなものを用意せずとも楽しくレクリエーションができる ことはとても良いことだと感じました。 (総合情報・3年次生)

5 「みんなで考える!環境ミーティング!」第1部 環境講座

本企画は「みんなで考える!環境ミーティング!」として第1部は午前中に「環境講座」を、 第2部として午後に「ボランティア体験ツアー〜淀川掃除ボランティア〜」を実施した。 ボランティアセンターでは淀川掃除など、環境に係るボランティアイベントを多く実施してきたが、参加者が活動を通して何らかの「気付き・発見」を得たとしても、「なぜこういう事態になったのか」という経緯を考える機会まで提供することは困難である。そこで、はじめに環境講座で各自環境問題を"自分事"として捉えてもらったうえで、ボランティア活動に取り組む機会を提供した。講座では、どこからがゴミで、どこからがゴミではないのかという「ゴミの境界線」について参加者全員で考え、みんなで意見を出し合った。

日 時	2016年12月4日(日)10:00~12:00		
場所	梅田キャンパス Room701		
講 師	NPO法人スマイルスタイル 事務局長 古市 邦人 氏		
受講者数	13名		

【参加者の声】

- ・ゴミとは何かという非日常的な意識について考えることができました。実際にボランティア活動として行われていることを聞くことができ自分の学んでいる専攻に活かすことができると思いました。 (環境都市工・3年次生)
- ・講座中「ボランティアをする機会があれば参加してみたい」という人が6割もいるというデータを見てとても多いと思った一方、実際に参加している人は少ないことは惜しいなと思いました。 単にボランティアに参加するのではなく、楽しんで活動することが大事であることを知ることができてよかったです。 (法・2年次生)

6 学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー ~コミュニケーションスキルアップ講座~(全3回)

ボランティア活動をはじめたいが、「自分に自信がなく最初の一歩が踏み出せない」という学生もいる。そういった学生の不安を解消するために、「自分らしいコミュニケーションの取り方」を知ってもらう機会を提供することを目的として開講した。

講座全体を通して、色々な人とコミュニケーションをとる 機会が持てるように、毎回メンバー構成を変更して様々なグ



ループワークに取り組んだ。同じものでも視点・視座や視野が異なれば見え方が変わる。相手の 立場に立つことや相手の心を知ろうとすることはコミュニケーションの一歩である。学生生活で

は新たな出会いが溢れているが、その相手はそれぞれ異なった個性を持っている。万人に適応する魔法の言葉は無いかもしれないが、コミュニケーションをとる際の「自分の意識」の持ち方は変えることができる。本講座を通して学びとったことを学生生活で活かし、各自に合ったコミュニケーションの取り方を身に付けてほしい。



日 時	2016年12月5日~12月19日(毎週月曜日・全3回) 18:10~19:40
場所	千里山キャンパス 第2学舎 2号館 C505教室
講師	NPO法人 心のサポート・ステーション 代表理事 本学ハラスメント相談員 宮本 由起代 氏
受講者数	第1回 12月5日(月) 17名 第2回 12月12日(月) 18名 第3回 12月19日(月) 13名

【参加者の声】

- ・人の話をしっかりと聴く、これは単純なことと考えていましたが、意外にもできていなかったことが数多くありました。これからは講座で学んだように、相手に関心をもって会話をしていきたいです。 (法・2年次生)
- ・アサーションのポイントや大切さを学ぶことができました。断るときに、懇切丁寧に断るのではなく、簡潔に断るということを伺ったときはなるほどと思いました。 (法・1年次生)
- ・隠れた感情、本音をくみとり、こちらもそれを素直に言うことがスムーズなコミュニケーションにつながると思いました。返答がイエス・ノー両方の可能性があるということを考え、フレキシブルな思考をすることが重要であると感じました。 (法・1年次生)

7 ボランティアセンター・テーマ別講座「学習支援」って何だろう?~子どもの学びをサポートしよう!~

「学習支援」とはどのような活動のことを指すのか、またどのような背景(社会問題)から学習支援が行われているのかについての見識を本学学生に広め・伝えることを目的として本講座を開講した。

ボランティアセンター内のボランティア掲出状況を見ても わかるように学習支援に係るサポートを求める声は年々増え ており、社会におけるボランティアニーズも高まっている。



学習支援が多く求められる背景には、家庭における金銭的な理由だけではなく、子どもが「ひとりぼっち」の状態に陥っているケースも多く見られるとのことであった。ボランティアセンターには学習支援ボランティアに興味のある学生が多く訪れているため、適切なボランティアコーディネートを行うことで学習支援を求める環境にある子ども達とボランティア学生を繋げていきたい。

日 時	2016年12月13日(火)18:00~19:30
場所	千里山キャンパス 第2学舎 2号館 C505教室
講師	特定非営利活動法人 あっとすくーる 代表 渡 剛 氏
受講者数	16名



【参加者の声】

- ・子どもたちの学力が伸びないのは、家庭事情などが妨げになることもあることを知り、またそれを解消することで学力が伸びる場合もあるということが印象的でした。もし学校の先生になったら叱るばかりではなく誉めて伸ばしたほうがいいのではと思いました。 (文・1年次生)
- ・大学生が関わる意義について講師自身が大学生のうちから参加されていたこともあり、とても説得力がありました。 (社会・4年次生)

注目

各種講座・講演会のポスター

講座・講演会のポスターは、具体的な内容や写真などを入れて学生が興味を引くデザインに 工夫しています。



ボランティアセミナー in 高槻ミューズキャンパス



災害ボランティアガイダンス



学生生活で役立つコミュニケーション スキルセミナー ~コミュニケーションスキルアップ講座~



ボランティアセミナー in 千里山キャンパス



「レクリエーション講座」 ~楽しくなる "魔法" のかけ方♪~



「学習支援」って何だろう? ~子どもの学びをサポートしよう!~



ボランティアセミナー in 高槻キャンパス



みんなで考える! 環境ミーティング! 淀川掃除×環境講座



関西大学創立130周年記念事業 赤星憲広氏と山縣文治教授による対談

7 ボランティアセンター学生スタッフ活動記録





まもるくん

ボランティアセンター学生スタッフとは・・・

「ボランティアセンター職員と共にセンターの運営事業に携わり、学生目線から学生のボランティア参加のきっかけ作りを行う」ことを理念に活動している団体です。また、学生スタッフは、関大生にボランティアを広めること以外に、ボランティア活動への参加や、学外で行われるボランティアセミナーなどにも積極的に参加しています。2016年度においては、新たに25名のスタッフが加入し、総勢87名になり、2016年度も充実した活動となりました。

ここからは、そんな彼ら彼女らの活動を感想も含めて紹介します。

定例の活動

学生の中には「ボランティアに関心があるけれど一歩踏み出せない」という学生がおり、学生スタッフはそのような学生を後押しできるような、さまざまな取り組みを行っている。2016 年度においては、定例の活動として4つの取り組みを行った。

1 学生スタッフによるボランティア情報紹介

当センターでは、職員がボランティアコーディネートを行うだけではなく、同様に学生スタッフも立場が同じ関大生にボランティア情報紹介を行っている。学生スタッフがボランティア情報紹介をする時間帯を設け、ボランティアに関心のある関大生の想いを聞き、その人に合ったボランティアを見つけるお手伝いをしている。



2 関大クリーン大作戦 ~図書館の本の落書き消し~

千里山キャンパス総合図書館にて、本の落書き消しボランティア活動を実施している。この活動は、最も長く継続している活動であり、関大生に学内で気軽に参加できるボランティアとして広まっている。落書きを消しゴムで消すだけではなく、ポスターや落書きを消すことができなかった本に貼る啓発シールを作成し、落書き防止活動も行っている。このボランティア活動に参加したことがきっかけとなり、次のボランティア活動につなげてもらうことも目的として実施している。



図書館の本の中には落書きされたものやラインの引かれたものがあり、それらをきれいにすることで、次に読む人が気持ちよく読むことができる。また、本企画はボランティア活動に初めて参加する学生に非常に参加しやすいボランティアである。そのため、学生にボランティアを体験してもらう良い機会となり、ボランティアセンターの周知にもつながる。これが本企画を実施する目的である。

日時 6月11日(土)14:40~16:10

11月11日(金)10:50~12:00 12月20日(火)13:00~14:30

場所 千里山キャンパス 総合図書館 3 階 グループ閲覧室

内容 図書館の蔵書の落書きを消し、特に汚れがひどい本には落書き防止の啓発シールを貼る。

3 関大クリーン大作戦 ~大学周辺の清掃活動~

普段利用している千里山キャンパス周辺を清掃する ことにより、気分よく関大生が通学することができ る。また、ボランティア活動に初めて参加する学生 に非常に参加しやすいボランティアであると考え る。そのため、学生にボランティアを体験してもら う良い機会となり、ボランティアセンターの周知に もつながる。これが本企画を実施する目的として実 施した。本年度は高槻キャンパスでも実施した。



日時 4月10日(日)10:00~12:00

4月16日(土)10:40~12:10 6月26日(日)10:00~12:00 ※高槻キャンパス

8月24日(水)11:00~12:00 9月17日(土)11:00~13:00

場所 千里山キャンパス内、関大裏、関大前通り

内容 大学周辺のゴミ拾い

阪急高槻市駅~ JR 高槻駅周辺 ※6月26日のみ

4 淀川掃除ボランティア(ボランティア体験ツアー) [P.24参照]

淀川のゴミを拾うことで、大阪湾へゴミが流れ込 むことを防ぎ、たくさんの人が淀川を気持ちよく利 用できるようにする、環境と景観を保護する活動。 単発のボランティアをボランティア体験ツアーとし て実施することで、ボランティアに参加することへ の敷居を低くしている。本活動は、毎年たくさんの 関大生が参加し、関大生にとって「気軽にできるボ ランティア」として親しまれ、2016年12月で累計 参加者が 6.100 名を突破した。



5月15日(日)9:00~11:00

6月19日(日)9:00~11:00 ※雨天のため中止

12月4日(日)9:30~15:00 10:00~12:00まで環境講座実施

内容 淀川河川敷のゴミ拾い 淀川河川公園 河川敷

参加者数 延べ 199 名(ボランティアセンター学生スタッフを含む)

累計参加者数 6.113 名

参加者の声



毎回思うことですが、ごみを拾おうという意識が高い学生ボランティアの方が多いで す。それだけ一生懸命活動してもらえると、企画している側としてもさらによい活動にし たいという気持ちにさせてもらいます。また、掃除中に警備員の方や散歩中のおじさん・ おばさん方に「掃除お疲れさま」や「暑い中ありがとう」と、たくさん声をかけてもらい 嬉しかったです。 (文 • 4 年次生)

12月4日の環境講座は非常に学ぶことが多かったです。清掃活動では、生憎の天候で あったが、講座で学んだことを意識しながらごみ拾いを行えたと思います。

(環境都市工・2年次生)



2016年度ボランティアセンター学生スタッフ実施事業 (年間表)

	全体	大学班	河川班	高槻班	吹田班	明日香班	広報部	ボラリー	その他
4 月	・新入生歓迎行事 千 里山・高槻 (4/2・4) ・写真展 in 高槻キャ ンパス (4/25 ~ 27)	○関大クリーン大作 戦〜千里山キャン バス周辺の清掃 活動〜(4/10) ○関大クリーン大作 戦〜千里山キャン バス周辺の清掃 活動〜(4/16)					・ボランティア カレンダー 作成	• Volury (vol.29) 発行 (4/1)	・ボランティア フェスティバル 2016 ~ボラン ティアでつなが る関大~ (4/19・21・22)
5 月			○ボランティア 体験ツアー〜 淀川掃除ボ ランティア〜 (5/15)				・ボランティア カレンダー 作成		
6 月	■ボランティアセン ター学生スタッフ 養成講座 コーディ ネート講座 (6/23)	○関大クリーン大 作戦〜図書館の 本の落書き消し〜 (6/11)	○ボランティア 体験ツアー〜 淀川掃除ボ ランティア〜 (6/19) ※雨天のため中 止	○関大クリーン 大作戦 in 高 槻 (6/26)	○ボランティア 体験ツアー〜 小学生にで楽し についでも童 く学・・学 おう・・学 れあいボラン ティア〜(6/29)		・ボランティア カレンダー 作成		
7 月	・平成 OSAKA 天の 川伝説 2016 ボラン ティア (7/7)							• Volury (vol.30) 発行 (7/1)	
8 月	○ボランティア体験ツ アー〜見て発見、さ わってかいめい!身 近なフシキ®キッ ズミュージアム〜 (8/2・3) ■ボランティアセン ター学生スタッフ養 成講座(8/30)	○関大クリーン大作 戦〜千里山キャン パス周辺の清掃 活動〜(8/24)		○ボランティア 体験ツアーマ きれいなあう! 峡を神・ウリー 、ファティア (8/21)		○ボランティア 体験ツアー 〜飛鳥光の 回廊〜 (8/27・28)			
9 月	■ボランティアセン ター学生スタッフ養 成合宿 (9/6・7) ・富士山清掃ボラン ティア〜みんなでつ なげる! 環境の輪〜 (9/14 ~ 16)	○関大クリーン大 作戦~清掃活動と 図書館の本の落 書き消し~(9/17) ※清掃活動のみ実 施							・千里山まちびら きボランティア (9/4)
10月	○頑張る人を学生スタッフと応援の う!!〜第6回大阪 マラソン給水ボラ ンティア〜(10/30)		○ボランティア 体験ツアー〜 大和川掃除 in 堺〜(10/9)	○ボランティア 体験ツアー〜 アユの産卵 場を整備しよう!〜(10/22)	○ボランティア 体験ツアー〜 日用品で子ど も達と楽しく レッツ工作!〜 (10/22・23)		大阪マラソン 給水ボアラボ事に デリスティア ・カップによる ・カップによる ・カップに ・カップ ・カップに ・カップに ・カップに ・カップに ・カップに ・カップに ・カップに ・カップに ・カップに ・カップに ・カップに ・カップに ・カップに ・カップに ・カップに ・カップに ・カッと ・カップに ・カップに ・カッ ・カッ ・カッ ・カっ ・カっ ・カっ ・カっ ・カっ ・カっ ・カっ ・カ ・カっ ・カ ・カっ ・カ ・カっ ・カっ		
11 月	○ボランティア体験ツ アー 2016 学園祭 学んで教える防災 のいろは〜子ども と楽しく学園祭〜 (11/3・5・6)	作戦~図書館の			〇ボランティア 体験ツアー〜 千里にみん なの光を灯そ う! 千里+ャ ンドルロード 2016 ボ ラン ティア〜(11/5)				・関大防災 DAY 2016 〜広がれ! みんなの安全・ 安心!〜「学んで 役立つ防災のい ろは!」(11/18)
12 月	○ボランティア体験ツ アーまち FUN まつり in 関西大学 2016 運 営補助ボランティア (12/11)	○関大クリーン大作 戦〜図書館の本の 落書き消し〜 (12/20)	○ボランティア 体験ツアー〜 淀川掃除ボ ランティア〜 (12/4)				・ボランティア カレンダー 作成		
1月								• Volury (vol.31) 発行(1/11)	
2 月			・第6回「淀川 大掃除〜みん なの力で輝く 淀川〜」(2/12)						
3 月	■ボランティアセン ター学生スタッフ養 成講座(3/7) ■ボランティアセン ダー学生スタッフ養 成合宿(3/9・10) ・ボランティアセン ター学生スタッフ活 動報告会(3/14)		在, 雜叶△☆			〇ボランティア 体験ツアー 〜景駅ボラ ンティア in 明日香村〜 (3/5)			 第5回学生ボランティアと支援者が変変流集 会(3/3~5)

○:ボランティア体験ツアー ■:各種講座・養成合宿 ・:各種イベント

企画・キャンペーン活動

定例の活動とは別に、学内での企画や様々な社会問題の啓発活動を行っている。

1 新入生歓迎行事

新入生歓迎行事で広報活動を行い、新入生や在学生にボランティアセンターの認知度を高めることで、ボランティアをより身近なものに感じてもらう。また、現在の事業を継続・発展させるべく新たな学生スタッフの勧誘を実施した。

日時 4月2日 (土) 及び4月4日 (月) 9:00~18:00

場所 千里山キャンパス 凜風館 1 階外 (悠久の庭側) 高槻キャンパス B 棟 2 階 TB202

内容 ブースを設置し、ボランティアや学生スタッフの活動に興味を持った新入生に対して、ボランティア情報や活動内容の紹介を行った。



2 ボランティアフェスティバル2016 ~ボランティアでつながる関大~

本イベントは、学生スタッフを含む学内のボランティア団体との合同イベントであり、2016 年度で 9回目を迎えた。学生スタッフは、新入生たちに関大には魅力的なボランティア団体が存在し、関大のボランティアの多様性を広報することを目的として実施した。



日時 4月19日 (火)・4月21日 (木)・ 4月22日 (金) 12:10~16:10

場所 千里山キャンパス 凜風館1階外(悠久の庭側)

参加団体 児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」、手話サークル「あっぷる」 児童文化実践サークル「うぷ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」 文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ

3 写真展 in 高槻キャンパス

高槻キャンパスの写真展にボランティアセンターも参加し、写真を通して当センターの活動を知ってもらい、関心を持ってもらうことで、より多くの学生をボランティア活動への参加に繋げることを目的として実施した。

日時 4月25日(月)~4月27日(水)

 $10:30\sim17:00$

4月27日(水) 14:40~16:10 ボランティアセミナーを実施

場所 高槻キャンパス K 棟ギャラリー

内容 ボランティアセンターや学生スタッフについての紹介、

ボランティア活動中の写真の展示

4 小学生に防災について楽しく学んでもらおう! 学童ふれあいボランティア (ボランティア体験ツアー)

豊津第一小学校の学童の先生方から、昨年と一昨年に引き続き防災に係る出し物を、学童への防災教育の一環として行ってほしいとの依頼があった。今回のボランティア参加を通じて、地域のニーズに応えるとともに、より多くの学生にボランティアの楽しさや、やりがいを感じてもらい、次のボランティアへの参加に繋げることを目的とし実施した。



日時 6月29日 (水) 14:30~16:30

場所 吹田市豊津第一小学校

内容 防災に関する紙芝居、クイズ、カルタ、 防災グッズつくり、集合ゲーム

参加者 一般学生5名、学生スタッフ9名



5 平成OSAKA天の川伝説2016 ボランティア

七夕の夜、人々の願いを託した光の玉「いのり星」を天の川伝説にゆかりの深い天満橋(大川)に放流し、川面に「天の川」を創造するイベントである。昨年は約5万人を超える方が訪れ、大阪に新たな夏の風物詩として定着した。昨年に引き続いて「いのり星」放流サポートのボランティアとして参加した。

【事業主体】一般社団法人 おしてるなにわ

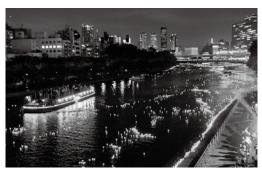
日時 7月7日 (木) 18:00~21:00

場所 大川・天満橋〜北浜周辺

内容 案内補助及び「いのり星」放流補助

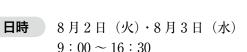
参加者 一般学生5名、学生スタッフ9名





6 見て発見、さわってかいめい!身近なフシギ @キッズミュージアム (ボランティア体験ツアー)

本学博物館主催のイベント「キッズミュージアム」に参加した。一般学生・学生スタッフに子どもや保護者との関わりのなかで、コミュニケーション能力や臨機応変な対応力を身に付けることが期待でき、子どもと接する楽しさや、企画を通して学生ボランティアに子どもとふれあうボランティアを体験してもらうことで、次なるボランティア参加の足掛かりとするとともに、本大学にボランティアの魅力を広めることを目的で実施した。



場所 千里山キャンパス 関西大学博物館

内容 蛍の人生ゲーム、糸電話作り、 空気砲ゲーム、外来種の釣りゲーム

参加者 一般学生 10 名、学生スタッフ 49 名







参加者の声

子どもが好きなので参加しました。とても楽しく子どもたちから元気をもらうことができました。 (外国語・3回生)

連携事業

7 きれいな摂津峡を守ろう! 摂津峡クリーンアップボランティア (ボランティア体験ツアー) [P.25 参照]

摂津峡にて清掃活動を行い、直接自然に触れることによって、環境保全の意識を高め、清掃という身近なボランティアを通して、魅力ややりがいを感じてもらうことを目的として実施した。

【連携先】高槻市産業環境部産業振興課

日時 8月21日(日)8:50~12:00

場所 高槻市摂津峡公園

内容 摂津峡公園から上流に向かって、清掃活動を行った。また、清掃活動と並行して、 摂津峡の来訪者にゴミのポイ捨て等に関する啓発チラシを配布した。

参加者 一般学生6名、学生スタッフ18名







学生スタッフの声

上の口付近の清掃では、淀川清掃よりはるかにごみが多かったので、最初に見た時は驚きました。その分すべての作業を終えた時の達成感は大きかったように思いました。また、参加者全員が汗をかきながら一生懸命活動する姿を見て、一体感を感じました。(商・2年次生)

連携事業

8 飛鳥光の回廊ボランティア(ボランティア体験ツアー) [P.25参照]

明日香村では毎年、「飛鳥光の回廊」にて、石舞台をはじめ、伝板蓋宮跡や水落遺跡、飛鳥寺など、明日香村内の代表的な史跡、寺社、施設をライトアップし、20,000本を超えるろうそくの明かりで彩るイベントを開催している。2016年度もその事業に、本学もボランティアとして参加した。

学生ボランティアが灯篭配置のデザイン会議から 参加することで、他の活動では得られない大変さや、 それによって得られる達成感を感じてもらい、明日 香村を散策することによって、歴史や文化的価値を 学んでもらった。



【連携先】奈良県明日香村 (関西大学地域連携センター)

日時 8月27日 (土) 11:00~20:00 8月28日 (日) 13:00~20:00

場所 奈良県明日香村石舞台古墳

内容 灯ろうのデザインを考える (学生スタッフと一般学生の希望者)27 日 灯ろうを並べ、点火する28 日 ろうそくを入れ替え点火し、明日香村散策

参加者 27 日(土) 一般学生 19 名、 学生スタッフ 22 名 28 日(日) 一般学生 15 名、 学生スタッフ 10 名





学生スタッフの声

生まれて初めてのボランティア体験だったので関大を通しての活動で参加しやすく、灯ろうを並べるのは地道な作業でしたが驚くほど達成感があり、夜になって輝くキャンドルを見た時は非常に感動しました! (社会・1 年次生)



9 千里山まちびらきボランティア

千里山駅周辺の再開発完了を記念して、千里山駅 前エリアで市民イベントが開催された。そこで、本 イベントのお手伝いとして、市民の方々と共に「縁 日屋台の運営(射的・わなげ・スーパーボールすく い)」及び「体験型ワークショップの支援」を行った。 普段お世話になっている千里山地域に恩返しすべ く、千里山を盛り上げる地域活性化ボランティアに 参加した。



日時 9月4日 (日) 9:30~16:00

場所 阪急千里線「千里山駅」隣接の 「ショッピングセンター BiVi」

参加者 一般学生 15 名



10 学生スタッフ養成合宿(夏) [P.31参照]

ボランティアセンター学生スタッフは、精力的に活動している一方でやや力不足と感じられる部分がある。今後さらに活動を充実させるために、今一度学生スタッフとしての自覚を持つべきと考え、今回の合宿では「一人ひとりが学生スタッフとしての意識を持ち、みんなでボランティアセンターを作り上げていく」ことを目標に掲げて実施した。



日時 9月6日 (火) ~9月7日 (水)

場所本学飛鳥文化研究所・植田記念館

参加者 48 名(赤尾副所長、堀・村上・渡瀬、学生スタッフ 44 名)

関西大学創立130周年記念事業

11 富士山清掃ボランティア ~みんなでつなげる!環境の"輪"~ [P.18参照]

世界遺産にも認定されている富士山は美しい印象の反面、過去の負の遺産による深刻な「ごみ問題」を抱えている。私たちの生活に多くの恵みを与えてくれる富士山の「①雄大さを体感し、②ごみ問題を知り・清掃をし、③これからの環境問題を考える」プログラムを実施した。

日時 9月14日 (水) ~ 9月16日 (金)

場所 青木ヶ原樹海

参加者 一般学生 30 名、学生スタッフ 11 名 当センター教職員

(赤尾副所長、堀・村上・渡瀬) 4名



富士山という誰もが知っている山について、自分自身もある程度のイメージを持っている中での活動でしたが、実際に体験したことは全く違うものでした。初めてボレランティアに参加したので不安もありましたが、学生スタッフの方がいることで、質問しやすい環境でした。清掃活動だけではなく富士山の現状を知ることができて良い経験になりました。 (法・2年次生)









12 大和川清掃 in 堺 (ボランティア体験ツアー)

ボランティアセンターでは多岐にわたる体験ツアー を企画しているが、千里山キャンパスもしくは高槻 キャンパス周辺の企画にとどまってきたため、堺キャ ンパスの学生には参加しにくい状況にあった。今回、 堺キャンパスのボランティア団体 WEVO と連携を行 い、堺キャンパスで行う体験ツアーの足がかりとして 実施した。



日時 10月9日(日)9:30~12:00

場所 一級河川 大和川 本学堺キャンパス近辺

内容 大和川河川敷清掃活動

参加者 一般学生8名、学生スタッフ10名



学生スタッフの声

活動をする前に自己紹介を行ったことで、よい雰囲気づくりのきっかけとなり、学生ボラ ンティアも緊張せずに学生スタッフや WEVO の学生たちと話しながら、和気あいあいと活 動を進めることができました。 (社会・2年次生)

アユの産卵場を整備しよう! (ボランティア体験ツアー) [P.25参照]

高槻市の NPO法人芥川倶楽部の活動である「アユ の産卵場の整備活動」に参加した。アユは秋に産卵す るため、アユが産卵しやすいよう大阪府と高槻市とと もに川底を耕し、産卵場を整備した。また、参加者に は高槻市の芥川に天然のアユが生息することを知って もらうとともに、自然とふれあうことで環境保全につ いて考えてもらうきっかけとなった。

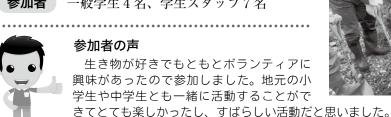
【連携先】大阪府、高槻市、NPO法人芥川倶楽部

日時 10月22日 (土) 10:00~12:00

場所 高槻市 芥川 城西橋上流右岸側

内容 川底を耕してアユの産卵場を整備する

参加者) 一般学生 4 名、学生スタッフ7名







14 日用品で子どもと楽しくレッツ工作! (ボランティア体験ツアー)

吹田市の浜屋敷の職員の方々から、日常的に電子 ゲームで遊ぶ子どもたちに液晶画面から離れ、さま ざまな体験をし、知識を広げてもらうために手作り 体験ブースを出してほしいとの依頼があった。今回 のボランティアを通じて、地域のニーズに応えると ともに、地域活性化に尽力できたと考えている。ま た、より多くの学生にボランティアのやりがいや楽 しさを感じてもらい、他のボランティアへの積極的 な参加に繋げることを目的とする。



日時 10月22日(土)~10月23日(日) 10:00~16:00

場所 吹田歴史文化まちづくりセンター浜屋敷

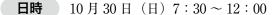
内容 ミサンガ・紙コップロケット作り

参加者 一般学生5名、学生スタッフ13名



15 頑張る人を学生スタッフと応援しよう!! ~第6回大阪マラソン給水ボランティア~

第6回大阪マラソンの給水ボランティアへ学生スタッフのみならず、関大生に参加を募り、一緒に活動することで、参加した関大生に他のボランティア活動にも関心を持ってもらう。また、このボランティアでは、給水や応援などを通して、直接ランナーの方と関わることができるので、参加した関大生にもよりボランティアの楽しさ、魅力を感じてもらえるような活動になった。



場所 大阪マラソン第1給水所 (5 km地点・千日前東ブロック)

内容 給水所でのランナーへの給水サービス活動

参加者 一般学生 73 名、学生スタッフ 25 名





学生スタッフの声

最初の30分位にランナーが一気に来たので、途切れることなく紙コップを用意しアクエリアスを注ぎました。しかし忙しい合

間に受け取ってくれるランナーから「ありがとう」「君たちもがんばって」と声を掛けてくださり、とても嬉しかったです。応援する側であるこちらが、逆に元気をたくさんもらいました。 (法・2 年次生)

朝早いにも関わらず元気に応援できたので、気持ちのいいボランティアとなった。またランナーも笑顔で手を振ってくれたり、ありがとうと言ってもらえたから活動していてとても元気になった。

(政策·2年次生)



16 2016学園祭「学んで教える防災のいろは ~子どもと楽しく学園祭~」 (ボランティア体験ツアー)

本学学園祭には、親子連れや子どもが多く来場するため、子どもを対象とした防災について子どもが遊んで学べるブースを設けた。災害を身近に感じ、実生活にいかしてもらうことが本企画の意図するものである。またこの企画を通して、統一学園祭に来訪される保護者の方や地域の方及び関大生に、ボランティアの魅力と我々の活動を知ってもらえた。



目的 子供たちに防災について啓発し、また 「大切さ」を感じてもらうために、防災グッズ作り、脱出ゲーム、クイズ、防災借り物ゲームの4つのブースを設置する。

日時 11月3日 (木)、11月5日 (土)、11月6日 (日) の各10:00~16:00

場所 千里山キャンパス 凜風館1階 学生ラウンジ

参加者 一般学生 15 名、学生スタッフ 55 名

企画内容



①防災グッズ作り

内容 身の回りにあるもので簡単に作れる防災グッズを一緒に作ることで、もしもの時に役立ててもらう。



②脱出ゲーム

内容 災害時に適切な行動ができるように体験形式で脱出 ゲームを行う



③クイズ

内容 災害が起こった時に役立つ様な防災や震災にまつわる知識をクイズを通して学んでもらう。○×クイズ 形式でゲームを行う。



4)防災借り物ゲーム

内容 防災グッズは持っていても適切に扱えなければ意味 がないのでゲーム形式で使用方法を学ぶ。

17 千里にみんなの光を灯そう! 千里キャンドルロード2016 ボランティア (ボランティア体験ツアー)

ボランティアを通じて吹田市の地域の方々との交流を通して、吹田市と豊中市にまたがる千里ニュータウンの地域活性化に貢献した。また、学生ボランティアに準備段階から参加してもらうことでボランティアのやりがいや楽しさを実感してもらい、他のボランティアへの参加につなげることができた。



場所 豊中市 千里中央公園

内容 キャンドルの準備(色付け、デザイン)、 設置、点火、片付け

参加者 一般学生5名、学生スタッフ21名







学生スタッフの声

私は去年参加した時からこのボランティアが一番好きであった。吹田に関わることができることはとても有意義なことだと感じられるし、ろうそくで火を灯していくことの楽しさや、キレイなキャンドルを見ることができる点に魅力を感じる。吹田にキャンパスがある関大生として関わっていくべきイベントであり、ボランティアを楽しんでもらうことができる体験ツアーだと思うため、ぜひこれからも活動を続けてほしい。 (文・3年次生)

18 関大防災DAY2016 ~広がれ! みんなの安全·安心!~ 「学んで役立つ防災のいろは!」

ボランティアセンターでは熊本地震に際しては義援金募集活動(P.21)を行い、また、学園祭においては子どもを対象として防災への関心や学びをサポートする活動(P.58)を行なってきた。

本企画では来訪される地域の方、また大学生にボランティアセンターの活動を知ってもらい、また防災に対して関心をもってもらうことを目的に実施した。

日時 11月18日(金)10:00~15:00

場所 千里山キャンパス 凜風館周辺

ボランティアセンターが行った防災に関する活動をまとめたパネル展示を行った。 また学園祭で子ども向けに行なった防災学習の企画の中から内容をまとめた冊子を 作成・配布することで防災に関しての啓発を行った。

【活動展示パネル】

内容

「熊本地震義援金募集活動」、「災害ボランティアガイダンス」、「2016 年度学園祭」及び「豊津学童ボランティア」に関するパネルを一企画ごとに活動写真パネルと補足説明のキャプションを作成し、展示を行った。 【冊子】

- ・災害時に必要なグッズチェックリスト (関大の発行物を参考に作成)
- ・役に立つ最新防災グッズ紹介
- ・新聞紙を使った防災グッズの作り方(2016学園祭で作成したものを使用)
- ・防災に関する豆知識 (2016年学園祭で作成したものを使用)

19 まちFUNまつり in 関西大学2016運営補助ボランティア (ボランティア体験ツアー)

NPO 法人関西大学カイザーズクラブおよび NPO 法人ママふぁん関西との共催イベントに運営補助として参加した。参加するボランティア学生にとって日常、あまり接することない地域のママさん方との交流の場にする。また、子どもに科学の不思議、お金の大切さを学んでもらう機会とした。

日時 12月11日(日)10:00~16:00

場所 関西大学 千里山キャンパス全域

内容 サイエンスセミナー・子どもの職業体験 の補助・その他運営ボランティア

参加者 一般学生7名、学生スタッフ19名









20 第6回「淀川大掃除 ~みんなの力で輝く淀川~」 [P.24参照]

ボランティア体験ツアー〜淀川掃除ボランティア〜」が2011年1月21日付で国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所長より「淀川サポーター」として認定されたこと、また2007年度から始まり、2011年度で5年目を迎えたことから、記念事業としてミズノ株式会社及び体育会本部などの協力を得て、計約600名の参加者とともに清掃活動を実施した。

今年度も、より多くの関大生にボランティア活動のやりがいや楽しさを伝えるため実施することとし、また本学との連携協定を締結しているミズノ株式会社と協力し、ボランティア活動を通じて双方の発展と充実に寄与できた。





【連携先】ミズノ株式会社

目的 ボランティアに参加したことがある学生にはもちろん、ボランティアに参加したことがない学生や、あまり興味を持っていない学生にも「普段関わりが無い人と交流できることの楽しさや、大人数でひとつのことを成功させる達成感や一体感」に気付いてもらう機会

日時 2月12日(日)10:00~12:00

場所 淀川河川公園

とする。

協力団体 ボランティアセンター学生スタッフ 体育会本部

国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所

参加者 総勢約 600 名

(本学学生と併設校生徒約 570 名と関係者 15 名、ミズノ株式会社 従業員約 25 名ほか)

ゴミの回収量 約89袋(約3.3トン)



学生スタッフの声

当日は去年よりも全員がそれぞれに与えられた役割を理解し、考えてスムーズに動くことができていたと思う。一般の学生ボランティアさんが、体育会系の人の多さに圧倒されているところもあったが、普段は接することのない中高生や社会人の人たちと「一緒」に活動することはやはりいいものだなと思った。もっと「一緒」に活動できるような工夫ができればよかったと感じた。 (文・3 年次生)

21 景観ボランティア in 明日香村 (ボランティア体験ツアー) [P.24参照]

飛鳥川の清流復活、環境美化と景観形成を図るため、明日香村住民や関係者と協力し、河川周辺の清掃活動を実施した。ボランティア体験ツアーにすることで、参加学生へ自然環境に関する啓発を促し、地域交流のきっかけとし、今後のボランティアの参加につなげてもらうことをねらいとした。

日時 3月5日(日)10:00~12:00

場所 奈良県明日香村 岡高市橋付近から飛鳥川下流

内容 飛鳥川周辺での清掃活動

参加者 一般学生1名、学生スタッフ6名



学牛スタッフの声

飛鳥川はごみが多く、掃除範囲も広かった のでやりがいのある活動になりました。少し

危険ですが、川まで降りて川沿いのごみを拾うことができたのは今までにない楽しい経験となりました。参加してみて想像以上にやりがいがあり楽しくて、明日香村の村役場や郵便局の方をはじめ、地域の人たちが大勢参加しており交流ができることも大きな魅力であると感じました。 (文・3年次生)





22 学生スタッフ養成合宿(春) [P.31参照]

春合宿では、ボランティアセンター学生スタッフがより活発な団体へと成長していくため、①自分を見つめ直す②相手の立場に立って考える③ボランティアの必要性を考えることを目的として実施した。合宿を通して学生スタッフの一人ひとりがボランティアに対する意欲を高め、これからの活動をより良いものにしていく有意義な合宿となった。

日程 3月9日 (木)·3月10日 (金)

場所 本学飛鳥文化研究所·植田記念館

参加者 37 名 (松村副所長・堀・村上・渡瀬及び 学生スタッフ 33 名)





8 学生スタッフ代表からの一言

ボランティアセンター学生スタッフ代表 2016 年度代表 2年次生 綿谷 亮太



2016年度の代表を務めさせていただいています。

私は代表についた時から変わらず持っている想いがあります。

それは「関大生みんなに充実した大学生活を送ってほしい」ということです。大学生活とは人生の夏休みと言われることがあります。私はその休みとはただ"ぐーたら"するという意味ではなく、社会に出る前に自分の人格をより豊かなものにするための時間が多くあるという意味だと考えています。大学生活が「ただ時間が過ぎるだけ」で終わってしまったらもったいないです。ボランティアはそのような大学生活を充実させ

るための好材料です。やりがいが

あるだけではなく、社会問題の核心に迫る深いところを肌 身で感じることができるからです。

今年度は、ボランティア体験ツアーの前に講師の方にお越しいただき、そのボランティアの必要性をお話しいただいたり、学生スタッフと学生ボランティアさんとでボランティアについて話し合う時間を設けたりと「学び」を重視した企画を実施してまいりました。





参加してくださった学生ボランティアさんの大学生活がより充実したものになっていればこれ以上の喜びはありません。企画する学生スタッフにとっても「学び」について考えながら企画をすることはとても有意義で充実した時間となりました。

また、高槻エリアや堺エリアでも多くのボランティア体 験ツアーを行うことで、高槻キャンパス、高槻ミューズキャ

ンパス、堺キャンパスの学生も気軽にボランティアに参加できるようになってきました。

体験ツアーの質を向上し、エリアを拡大すれば、より多くの関大生に、ボランティアで大学生 活が充実したものにしてもらえればと思います。

こうした充実した活動ができているのも、学生スタッフを支えてくださる職員の方々、そして先輩方の努力の積み 重ねのお陰です。たくさんの思いを受け継ぎながら、活動 をより良いものにして行きたいと思います。





9 ボランティア団体への支援

1 大学としての危機管理 ~ボランティア活動保険への加入の奨励~

ボランティアセンターでは、学内のボランティア団体(届出団体)に対して、活動の安心安全 を確保するために「ボランティア活動保険」への加入の奨励をしている。また、大学からボラン ティア(地域貢献)活動を依頼することもあるため、学生の経済的負担を軽減するために保険加 入相当額を助成している。

助成団体

手話サークル「あっぷる」、児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」 児童文化実践サークル「うぷ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」 文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ 学生団体「KUMC」、「WEVO」

2 ボランティアセンター学生スタッフ・学内ボランティア団体とのミーティング

ボランティアセンター学生スタッフが中心となって、ボランティア団体とともに、定期的なミーティングを実施している。このミーティングを行うことにより、ボランティア活動に関する情報 共有をはじめ、ボランティアフェスティバルや新入生オリエンテーション期間に協力して勧誘活動を行うなど、学生団体同士の連携が促進されている。

開催日時 2016年4月8・14・18日、5月6・13・27日、6月10・24日、11月11・25日、12月9・16日、2月14・21・28日、3月7・17・14日(全18回)12:20~12:50			
場所	千里山キャンパス - 凜風館 4 階 - 会議室 1		
参加団体	手話サークル「あっぷる」、児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」 児童文化実践サークル「うぷ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」 文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ		

学生スタッフの声 デ

学内ボランティア団体のミーティングでは、ボランティア活動に関する情報共有や、各団体がどのような活動をしているのかを知る機会となっています。また、お互いを知るために交流会を企画・実施し、普段のミーティングに来ていないメンバーとも交流ができ、知り合いが増えました。今後は、一緒にボランティアの企画ができればいいなと考えています。 (社会・2年次生)

3 ボランティアフェスティバル 2016

本イベントは、関大生に大学内のボランティア団体について知ってもらうと共に、各団体の新入部員獲得のために2008年度から実施し、2016年度で9回目となる。ブースには、ボランティアに関心のある学生が多数訪れ、新入部員の獲得に繋げることができた。また、団体同士で交流を図ることができ、有意義な時間を過ごすことができた。



実施日程	2016年4月19日(火)・4月21日(木)・4月22日(金)各12:10~16:10
場所	千里山キャンパス 凜風館 1 階外(悠久の庭側)
参加団体	児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」、手話サークル「あっぷる」 児童文化実践サークル「うぷ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」 文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ

4 ボランティア団体の交流会

ボランティア団体のミーティングに参加している団体同士で、交流を図りたいという声が上がったことから 2010 年度より実施している。交流会では、団体が他の団体に関心を持ってもらうことはもちろん、自分とは異なった意見を持った人と出会う"きっかけ"にも繋がり、有意義な時間を過ごすことができた。

実施日時	2016年6月24日(金)18:00~19:45
場所	千里山キャンパス 第 2 学舎 2 号館 C302
参加団体	児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」、手話サークル「あっぷる」 児童文化実践サークル「うぷ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」 文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ

学外助成の実績(2015年度の活動実績)

学外助成金

学外の学生支援組織や社会福祉協議会は、学生のボランティア活動の振興のための助成を行っている。ボランティアセンターでは、これらの団体から寄せられる助成金の案内を学内ボランティア団体に情報提供を行ったうえで推薦し、助成が受けられるよう支援している。今年度は以下のとおり助成金が支給された。

助成団体:一般財団法人 学生サポートセンター 推薦団体:ボランティアサークル「チャレンジャー」

助 成 額:100.000 円

活動内容: 視覚特別支援学校での学内行事における手引

きやサポートを行ったり、障害者福祉施設のゆうゆう会での遠足や施設内での行事のサポートを主に実施している。夏にはキャンプ、冬にはクリスマス会などの大きなイベントもあり、障がいのある方との交流を



通して、障がいに対する理解を深め、学生自身の成長を目的に取り組んでいる。

助成団体:社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会 推薦団体:ボランティアセンター学生スタッフ

助成額:50,000円

活動内容: 関西大学ボランティアセンター学生スタッ

フは、ボランティアをするだけでなく本学 学生にボランティアを広めるという理念の 下にボランティアの企画運営をする活動を

行っている。

他にも、本学の学生にボランティアの第一 歩を踏み出してもらいたいという思いから ボランティアコーディネートも実施してい る。

助成団体:社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会

推薦団体:児童文化実践サークル「うぷ」

助成額:50,000円

活動内容:毎週水曜日に吹田市内の学童保育学級を訪

問し、うぷのプログラムであるペープサート (紙の人形劇)、紙芝居、身体を動かすゲームを通して子どもたちと交流を行っている。 夏休みには地方の小学校に訪問し、体育館をお借りして2日間の公演を行う合宿公演



や子ども野外カーニバル、普段訪問している小学校の子どもたちを大学に招待し公演 を行う等のイベントも実施している。

社会貢献を行う学生団体

本学では、社会貢献活動を団体の活動として行っている学生がいる。彼らの活動は、学外からも高く評価されており、ボランティアセンターを通して各団体にボランティア依頼が多数寄せられる。

ここでは、団体の活動紹介と活動に関わっている活動者の声を紹介する。

1 手話サークル「あっぷる」

目的

聞こえに関わらず、楽しむことを大切に日々手話の学習や、手話エンターテイメント (手話歌・劇)などの練習を通して、表現力とは何か、を意識し、その向上に取り組んでいます。学園祭ではそれらを発表することで手話の普及、イメージチェンジなどを図っています。また、他の大学との交流や、地域のサークルでの活動で実際に聞こえない方と会話することで実践力を高める活動も行っています。

内容

毎週2回、手話の学習会を行っています。加えて手話歌や劇などの発表で、団体としての統一感を意識しながら色んな人たちに活動の成果を見てもらう機会もあります。更に他団体との交流会で施設の準備から考えたり、手話通訳の依頼に応えたりと、大学外に活動の幅を広げています。それらの活動を通して、たくさんの人々との出会い、今までにない経験を積むこともできます。

【主な活動】

- ・関西大学主催手話交流会
- ・学園祭での手話劇
- ・歌発表

- ・声なし合宿
- · With Festa (手話歌発表会)





活動者の声



○学園祭

学園祭では劇や手話コーラスの発表を行いました。この発表を通して改めて手話は難しいなと感じました。それは大きな動きや豊かな表情により大勢の人にとってわかりやすいように様々な感情を表現しなければならないからです。ですが、この経験を通じて普段手話をする時も大きな表情を使えるようになったりと以前よりも表現力が豊かになりました。劇やコーラス中の手話は普段と違ったところもありますが、とても大切なことを楽しみながら学ぶことができました。すごくいい経験になったと思います。 (法・2年次生)

2 児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」

目的 吹田市内の学童訪問や長期休みを利用した小学校への訪問、地域行事などで子どもたちとふれあい、その関わりを通じて私たち自身も成長したいと考えています。

毎週水曜日に吹田市内にある学童保育へ訪問し、子どもたちに人形劇や紙芝居、 ゲームなどのプログラムの披露や、ドッヂボールや鬼ごっこなどの遊びを通じて 子どもたちと交流をしています。

【主な活動】

・毎週水曜日の学童訪問

- ・公演(地域行事への参加など)
- ・夏合宿 (大阪府以外の小学校へ泊りがけで訪問)
- ・チルドレンコンサート(普段訪問している学童の子どもたちを招待し、演劇を披露する)





活動者の声



夏合宿では、大阪府外の小学校に訪問します。そこで、普段行っている人形劇や紙芝居などを披露することで楽しんでもらったり、子ども達と一緒にゲームをしています。また、小学校主催のイベントに参加することもあります。子ども達と接する時間が長いので、新しく気づくことや学べることも多く、あかとんぼと子ども達双方にとって良い経験になるとても貴重な機会になっています。 (文・2年次生)

○チルドレンコンサート

チルドレンコンサートは、普段訪問させていただいている学級の子ども達を招待し、劇やダンスを披露するイベントです。例年演じるのは1年次生ですが、衣装や大道具などの裏方は2年次生以上で行い、全員が一体となり1つの劇を作り上げます。子ども達に楽しんでもらうのはもちろんのこと、あかとんぼの絆がよりいっそう深まるイベントになっています。 (法・2年次生)

3 児童文化実践サークル「うぷ」

目的

児童文化の啓発と発展に寄与し、吹田市に限らず、社会に貢献できることを目的としています。その中で子どもと関わることで子どもを楽しませることはもちろん、自分たちも活動を楽しむことを基本とし、子どもの成長だけではなく自分たちの成長にもつながるような活動をしています。

内容

毎週水曜日に吹田市内の小学校の学童保育を訪問し、子どもたちと遊んだり、うぷのプログラムであるペープサート(紙の人形劇)、紙芝居、身体を動かすゲームを子どもたちの前で披露しています。また、その他にも夏休みの長期休暇を利用して地方の小学校に訪問し、体育館をお借りして2日間公演を行う合宿公演や子ども野外カーニバル、普段訪問している小学校の子どもたちを大学に招待するイベントを行っています。

【主な活動】

·新入生歓迎会

・千里第二子どもカーニバル

・学童保育訪問

·夏合宿公演

・学園祭

・KUシンフォニーホールでのイベント開催







活動者の声

○イベント

私たちは毎年 3 月に普段学童保育訪問でお邪魔している小学校の子どもたちをKUシンフォニーホールに招待し、公演を行っています。他の活動と比べて長い「1ヶ月間」の練習期間を設けています。また本公演は 1・2 年次生のみで行うので上位年次生と下位年次生の間での絆がよりいっそう深まります。子ども達も毎年楽しみにしてくれており、やりがいや喜びを感じられます。 (システム理工・2年次生)

○夏合宿

夏休みに大阪府外の小学校に行き、泊りがけでの公演をさせていただきます。例年は2日間公演を行っているのですが2016年はこちらの都合で1日だけの公演とさせていただきました。子ども達と一緒にいられる間は短くなってしまったのですが、その分去年よりも短い時間の中で楽しませようと意識して取り組んだこともあり、とてもやりがいを感じられました。 (システム理工・2年次生)

4 ボランティアサークル「チャレンジャー」

目的

ボランティアサークル「チャレンジャー」は視覚特別支援学校や障害者福祉施設のイベントにボランティアとして参加することによる社会貢献を目的としています。また、普段接する機会の少ない障がいのある方との関わりを通して障がいに対する理解を深め、私たち自身も成長することを目指しています。

内容

視覚特別支援学校での行事における手引きやサポート、障害者福祉施設「ゆうゆう会」での行事における車いすでの移動のお手伝いや食事介助、トイレ介助などを行うことが主な活動内容です。また、子どもとふれあうボランティアや 24 時間テレビの募金活動も行っています。

【主な活動】

- ・視覚特別支援学校での活動
- ・24時間テレビ募金活動
- ・吹田こどもまつり
- ・障害者福祉施設「ゆうゆう会」での活動
- ・「まちつく」への参加
- ※「まちつく」とは、ダンボールを使って"まち"をつくる夏休みの 小学生向けワークショップです。







活動者の声

○ゆうゆう会

ゆうゆう会では、月に 1 度、障がいをお持ちの方々と一緒に様々な活動を行っています。 今年は、京都動物園や万博公園に紅葉を見に行ったり、室内でゲームしたりなど、色々な 活動をして楽しみました。「障がいをお持ちの方と活動する」と聞くと「大変そう」という イメージを持つ方もいらっしゃると思いますが、この活動に参加するとそういったイメー ジはなくなるのではないかと思います。実際に私がそうでした。活動に参加するまでは不 安と緊張でいっぱいでしたが、次第にコミュニケーションのとりかたや介護の仕方が分か るようになり、障がいのある方の笑顔を見てとても元気をもらいます。大変さよりも楽し さの方が上回り、毎回遠足気分で活動に参加しています。 (法・3 年次生)

○盲学校

盲学校内でクッキングや軽い運動を行う時もあれば、学外のプールや動物園に行ったりなど様々な活動を通して、視覚障がいのある方々と一緒に楽しんでいます。最初はどのように障がいのある方々と接していけばいいか、どうやったら楽しんでくれるのかなど不安な部分もたくさんありました。しかし、いざ活動に参加しコミュニケーションをとり、笑顔で楽しそうにしてくれた時は僕自身も嬉しく楽しくて、とてもやりがいを感じることができました。 (化学生命工・2年次生)

5 文化会「ユネスコ研究部」

目的

私たちはユネスコ憲章にある「心の中に平和の砦を」と言う理念に則り、主に子どもたちとの交流を中心としたボランティア活動を行っています。子どもたちには普段あまり関わることのない大学生との交流を通じて異世代交流の楽しさと集団行動の大切さを学んでもらうことを目的としています。また、子どもたちとともに行動することにより、部員の行動力や責任感を培い、新たな成長につなげていくことも目的の一つです。

内容

吹田市在住の子どもたちと月に一度交流する「ユネスコスクール」を中心に活動しています。「ユネスコスクール」では運動や料理、科学実験など様々な活動をしたり、遠足や宿泊学習を行っています。また、夏休みには過疎地の小学校を訪問し、2~3日にわたり現地の子ども達との交流を行っています。他にも吹田市を中心に地域のイベントの運営補助や、清掃活動などのボランティア活動にも取り組んでいます。

【主な活動】

- ・ユネスコスクール
- .
- ・過疎地の子どもたちと交流
- ・文化フェスティバル
- ・吹田ハロウィンパレード
- ・ハロハロSQUARE





C C

活動者の声

○ユネスコスクール

月に一度開催するスクールでは、吹田市の小学生と一緒に外で遊んだり、工作をしたりと様々な活動をしています。元気いっぱいに遊ぶ子ども達の笑顔を見ると本当に嬉しくなり、やりがいが感じられます。それだけでなく、どんな遊びをすれば楽しんでくれるだろう、次はこうしてみよう等と企画を考えることを通じて、自分自身も多くの考え方を学び、力を養うことで大きく成長することができたと実感しています。 (法・1年次生)

○過疎地の子どもたちと交流

過疎地の小学校にお声がけし、夏休みの期間に訪問させていただいています。2日間という短い間でいかに仲良くなれるかということを考えながら学年毎に企画を行なっています。活動最終日になると仲良くなった子ども達と別れるのがすごく寂しくなりますがとても楽しい活動です。この活動を通して部員間の仲も深まり、子ども達と遊ぶ楽しさを改めて感じることができます。 (文・3年次生)

6 学生団体「KUMC」

目的

私たちは社会安全学部(高槻ミューズキャンパス)で日々学んできた知識を活かして、防災の知識をより多くの人に広めるため、社会に向けた防災知識の発信を主な活動としています。災害が起こった時に自分たちの伝えた知識が活かされることを目標にしています。また、地域のお祭りなどでのボランティアにも参加し、地域貢献活動も並行して行っています。

内容

防災に関わる活動では、地域の小学校における防災の出前授業や様々なイベントに参加し、ゲームなどを通して防災の知識を楽しく学んでもらっています。地域貢献活動では、高槻市や茨木市、吹田市を中心に様々なイベントでのボランティアに積極的に参加しています。

【主な活動】

- ・小学校での防災出前授業
- ・防災ゲームや防災グッズの考案・作成
- ・図書館での防災絵本の読み聞かせ
- ・地域のイベントでのボランティア





活動者の声

○防災教育

防災教育班では、高槻市内の小学校を中心に、災害や事故から身を守る方法を伝える防災出前授業を行っています。防災というと、少し難しそうにも聞こえますが、子ども達に、防災グッズに触れてもらうことや、小学校周辺の写真から危険な場所を考えてもらうことにより、子ども達も一緒に参加できる授業を作っていくことで、楽しく防災について学んでもらうことを目標にしています。防災のことを楽しく伝えることは、いつも試行錯誤の連続ですが、仲間との相談や、子ども達の疑問からは、多くの発見が得られ、子ども達と一緒に私たち自身も成長できることが魅力です。 (社会安全・3年次生)

○地域イベント

KUMCでは、イベントのボランティアなどを通して多くの地域の方々と交流する機会があります。高槻市社会福祉協議会主催のイベントで、私たちは立体ハザードマップを使い地域の方々と災害時の避難について考えました。防災について地域の方々に伝えるだけでなく、同時に多くのことを地域の方々から学ばせてだきました。たくさんの学びを得たイベントでした。 (社会安全・3年次生)

7 [WEVO]

目的

私たちにできるボランティアを楽しく行うことが目的です。また、活動する際は、 ①地域とのつながりを大切にすること、②事業所と連絡を取り合い、企画や調整を 行うことにより、両者の関係を築くこと、③ボランティア先での交流や経験を通し、 様々なことを学ぶことの3点を意識しています。

内容

主な活動は幼稚園訪問と大和川清掃です。幼稚園と大和川は堺キャンパスから歩いて行ける距離にあり、地域に根差した活動となっています。学内では堺キャンパス祭にて毎年模擬店を出店し、学外ではオガリ作業所での夕食作りや子ども食堂などに参加しています。他にも、ボランティア情報の共有も行っています。

【主な活動】

· 幼稚園訪問 · 大和川清掃

・マラソンボランティア

・堺キャンパス祭での模擬店 ・事業所でのボランティア (夕食作りや子ども食堂など)







活動者の声

○活動全体を通して

何年も継続的に行っているボランティア活動もありますが、メンバーがやりたいと思った活動をすぐサークル内に取り入れられるのが、自由で良いところだと感じています。これからはもっと活動の種類や規模を広げていきたいと思っています。

(人間健康・3年次生)

○大和川清掃

大和川は堺キャンパスから近く、私たちにとって身近な存在です。そこでの清掃は川を 綺麗にすることはもちろんですが、学年を超えた協力や他キャンパスの学生との交流の場 となります。仲間と清掃を楽しみながらできることに誇りを感じ、そして川が綺麗になる とやりがいを感じられます。これからも私たちにとって身近な大和川をいつまでも大切に し、清掃を続けていきたいです。 (人間健康・3年次生)

各団体の代表者の声

手話サークル「あっぷる」

私の父は耳が聞こえないため、小さい頃から手話のある生活をしてきました。軽い会話程度しか話すことができなかったため、もっと手話で話したいと思い大学では手話サークルに入ることを決めていました。手話サークルってどういうところなのだろうと思いながらいざ入ってみると、先輩方の手話のレベルの高さに驚いたのを覚えています。ほとんどの人が大学から始めたと聞いてさらに驚きま



渉内: 岡崎

渉

した。ここなら自分の手話の力を伸ばせると思い入部し、手話サークルに行くのがとても楽しみになりました。同時にあっぷるをもっと良くしていきたい、何か出来ることはないかと考え渉内として幹部になり運営に携わりました。楽しく、真面目に手話を学び、活動中だけでなく帰り道でも手話を使って会話をするメンバーと一緒に活動ができることはとてもいい経験になっています。サークル内だけではなく、いろいろな大学、団体の人たちと交流する機会もあり、とてもいい環境で手話を学べています。

児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」

あかとんぼでの活動をしていく中で一番大切にしていることは、 自分自身も楽しむということです。学童保育の子どもたち、公演に 来てくれる子ども達を楽しませることは勿論のことですが、その場 で活動する私たちが楽しくなさそうにしてしまうと、それが子ども たちに伝わってしまいます。子ども達と外で遊ぶときも、何をする 時でも常に笑顔を忘れず全力で楽しむということは活動をしていく 上で大切なことだと思っています。



代表:池田 未央

現在 14 校の学童に訪問させていただいているのですが、14 校すべて同じように対応したらいいのではなく、子どもへの接し方、サポートの仕方、指導員の方との連携など、1 校 1 校に対してベストな対応ができるようにサークルのメンバーとの連携、チームワークが必要となります。今後もサークルメンバー一同精進してまいります。

児童文化実践サークル「うぷ」

私は1回生の時から「うぷ」の活動を通してその魅力を強く感じてきました。学童保育訪問ではたくさんの子どもたちがうぷの訪問を楽しみにしてくれて、学生の名前を覚え慕ってくれます。イベントではいつもとは違う形で学童保育の子どもたちを楽しませることができます。夏合宿では初めて会う子どもたちが私たちの考えたプログラムに真剣に参加してくれますし、千里第二子どもカーニバル



代表: 今井 凌太郎

ではうぷの他にも公演をしている団体や出店がある中でもうぷの公演を見に来てくれます。

私たちはそれらのどの活動においても、長い準備期間を設け、公演に向け準備をします。その 原動力となるのは子ども達の喜ぶ顔を見たいという気持ちです。その気持ちはきっとこれまでの うぷメンバー全員に共通するものだと思います。

私たちはそういった思いを残してくれた先輩方、そしてその活動を支えてくださる様々な方々を裏切らぬようこれからも活動に取り組んで行きたいと思います。

ボランティアサークル「チャレンジャー」

僕はこのサークルに入るまで、ボランティアということを一度もしたことがありませんでした。ただ人のために何かをしたい、喜んでもらいたいと思っていたので、ボランティアサークルに入ることを決めました。そして、自分の弟に障がいがあることもあって、接し方などももっと知ることができるのではないかとも思い、この「チャレンジャー」に入りました。様々な障がいを持たれた方々がいらっしゃり、コミュニケーショ



代表:崎田 雅稔

ンの取り方も様々なので、難しいこともたくさんあります。ただ一緒に活動していく中で喜んでくれたり、 笑ってくれたときは、本当に嬉しく、障がいのある方々からパワーをもらいます。また一緒に色々な所 に出かけたり、ゲームをする等コミュニケーションをとることがとても楽しいです。今年から代表になり、 まだまだ僕自身も頼りないところがありますが、メンバーと協力して、後輩たちにもボランティアのやり がいと楽しさを伝えていきたいと思います。

文化会「ユネスコ研究部」

将来教員になるのが目標で、様々な世代の子ども達と交流したいと 思い、ユネスコ研究部に入部しました。最初は子ども達と何をすれば 楽しんでもらえるのか、どうすれば仲良くなれるか心配でした。しかし 遊んでいくうちに心を開いてくれ子ども達からも話しかけてくれるように なり、とても嬉しかったです。2016年度はスクールの子ども達と少年 自然の家もくもくの里にキャンプをしに行ったり、大阪市立科学館に遠 足に行ったりとたくさんの思い出を作ることができました。



代表:椿

彩音

またユネスコでは子ども達との交流の他に吹田市のイベントのボランティアもしています。地域の方々と協力して一つのイベントをやり遂げるとすごく達成感が感じられます。 普段部員間だけで意見交換していますが、地域の方とお話しすることで新たな考えが浮かぶなど、私たちにとても有意義なものとなっています。 これからも地域のつながりを大切にしていきたいです。

学生団体「KUMC」

私は学生団体 KUMC の活動の中で様々な経験をしました。この団体に入ったことで、多くの人と出会いました。大学4年間の過ごし方は人それぞれですが、このようなボランティア活動に携わると、日頃の生活の中だけは絶対に出会えなかかったであろう多くの方と知り合えます。活動を通して出会った人々からたくさんのことを学びました。ボランティア活動には本当に多くの魅力が詰まっています。そしてその活動



代表:丸岡 佑亮

に共に取り組める仲間や、活動を通して知り合った素敵な人々は私の価値観を大きく変えてくれました。「つながり」の重要性を身に染みて感じることができました。今の私がいるのは、このボランティア活動を通して出会った人々と、この学生団体 KUMC があったからだと言えます。

「WEVO」 代表:平山 早希

今年は新たな挑戦をしてみたいという声が多く、自分たちにできることはどんどん挑戦し、活動しています。新たな挑戦の一つに、堺キャンパス祭での社会人とのコラボレーション企画として行った約 30 分のショーがあります。毎年堺キャンパス祭において模擬店は出展させていただいていましたが、ステージでの出し物は初めてでした。初めての試みだったため、正直大変だったことや苦労したことも多かったで



す。ですが、得たものも多く、今は挑戦してよかったという気持ちでいっぱいです。このように活動から得たものを、今後に活かしていけるよう頑張りたいと思います。

10 広 報 活 動

ボランティアセンターでは、関大生にボランティア活動の魅力を伝えるために次の広報活動を 行っている。

1 Webサイト

タイムリーな情報を発信し、ボランティア参加に繋がるように心がけた。



2 クリアファイル

2008年度からボランティアセンターと学生スタッフの広報手段として、作成している。クリアファイルは、配布を受けた学生が日常的に使用してくれることで認知度向上に繋がっている。

2016年度では、2,000部を作成し、クリアファイルにチラシを挟み込み、正門等で手配りすることでより多くの人に受けとってもらうことができた。

2016年度は、「成長」をコンセプトにデザインした。左端にある新芽はボランティアを始めようと一歩踏み出した瞬間を示している。初めてボランティア活動に参加する時は右も左もわからず不安が付きまとうが、活動への参加を繰り返すうちに自分の役割を見出し、自信を持って活動できるようになる様子を、「新芽が大木に成長する」デザインとして表した。幹の先端が枝分かれして広がっているのは、「ボランティアを広げていきたい」という思いを表している。また、葉の色が次第に濃くなっているのは、「成長」の過程で自ずと「その人の個性」が濃く表れていくことを意味している。文字色は太陽のイメージカラーであるオレンジ色を使用している。これはボランティア活動を通して、人の温かさを感じとれる人となり、周りの人との暖かい繋がり(人間関係)の形成に繋がってほしいというメッセージを込めている。

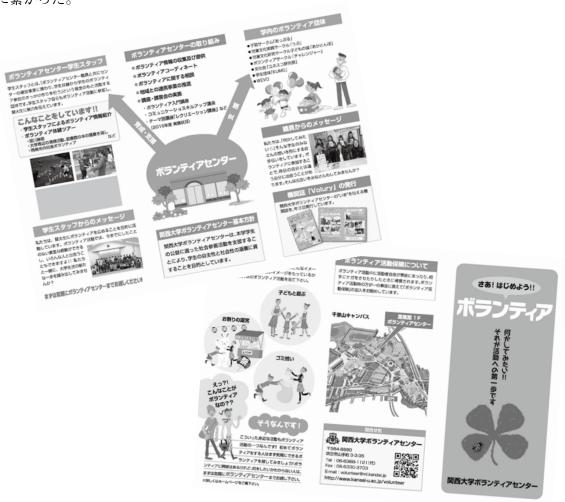


2016年度版(2,000部)

3 ボランティアセンターリーフレットの新入生全員配付

2010年度より、新入生全員に配付している。本紙は、ボランティアセンターの認知度アップとボランティアセンター学生スタッフを含む学生のボランティア団体の新入生獲得を目的に作成し、新入生全員に配付している。

作成以降、センター来室者が増加した。また、学内のボランティア団体においては新入部員の 増加に繋がった。



2016年度版(12.500部)

4 機関誌「Volury(ボラリー)」の発行

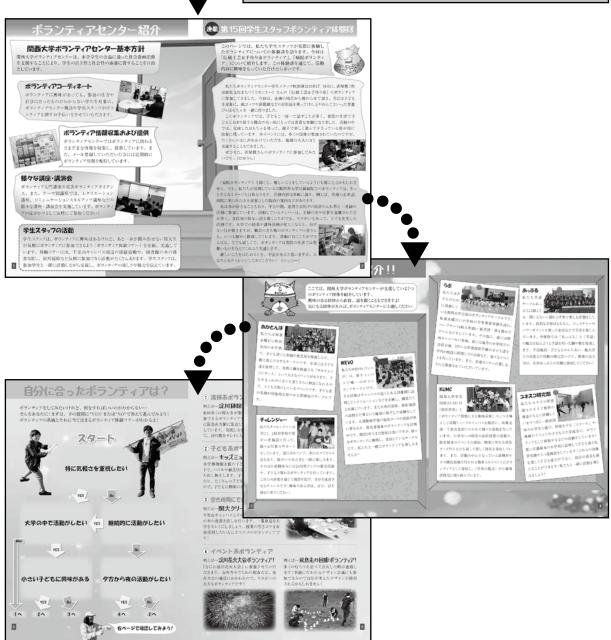
職員と学生スタッフが編集委員となって作成した。職員は、アドバイスと校正を中心とし、学 生スタッフの自主性を引き出すように支援した。

- ·vol.29 (4月1日発行)、vol.30 (7月1日発行)、vol.31 (1月11日発行)
- ·vol.29 は 12,500 部、vol.30·31 は 2,000 部発行

「Volury」 Vol.29 (2016年 4 月 1 日発行)

新入生向けに ボランティアセンター、 ボランティア団体の紹介をした。 また、学生スタッフの体験談に 加え「自分にあったボランティア が何か」を診断するページを 作成した。





「Volury」 Vol.30 (2016年7月1日発行)

ボランティアセンターと 学生スタッフの活動、 夏のおすすめボランティアの 紹介、ボランティアの魅力を 体験談を交えて 伝えた。

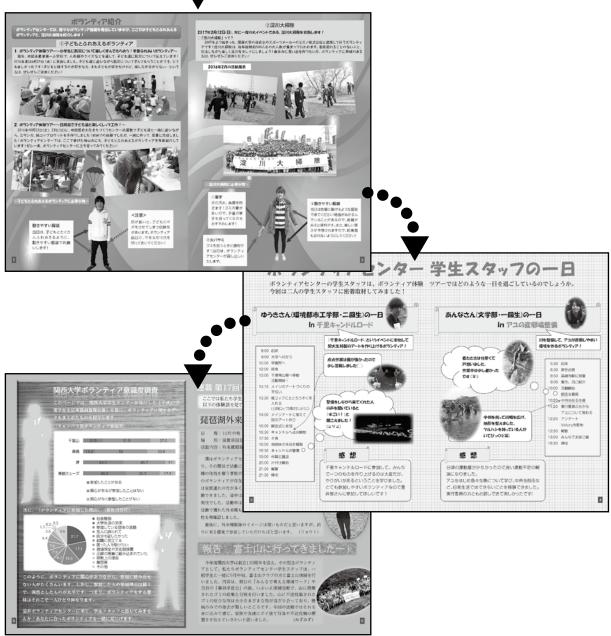




「Volury」 Vol.31 (2017年1月11日発行)

本学学生の ボランティア参加率に係る 情報やボランティア紹介、 学生スタッフの "ボランティアに参加した1日" の流れの紹介を 行った。





11 学 生 の 声

ボランティア体験報告

ボランティアセンターは、活動参加者がボランティア体験について振り返る機会を作るために、体験報告を寄せてもらうよう呼びかけをしている。また、体験報告をホームページなどに掲載し、自由に閲覧できるようにしている。体験報告を読むことで、具体的なイメージが湧きやすく、同じ関大生が参加したボランティアであれば、安心して参加できるという学生も少なくないようである。

ここでは、2016年度に学生から寄せられた体験報告を一部紹介する。

分	野	環境
内	容	大学周辺の清掃活動
日	程	2016年 6 月26日(日)
感	想	就職活動をしていて疲労・焦り・恐怖心があり、何か 達成感を得て再び動けるようにしたかったのでボラン ティア活動に参加しました。思っていたよりも、ゴミが 多い場所を担当したので色々掃除できました。また、参 加者の方とも話をすることができました。今後は自分も ゴミをなるべく落とさないように気をつけるようにしま す。今回の活動への参加を機にこれからの就職活動を頑 張ってみようと思います。 (システム理工・3年次生)

分 野	イベント
内 容	小学生に防災について楽しく学んでもらう
日 程	2016年 6 月29日 (水)
感想	意外と子ども達が防災について知っているとわかって 驚きました。私たちがクイズを出題した時、選択肢を言 う前に答えてくれたり、質問した時にたくさんの子が手 を挙げてくれたりと、積極的に参加してくれているよう に感じました。子ども達が言いようもなく可愛らしかっ たので、癒されました。 保護者の方も一緒に楽しんでいただけたようで嬉し かったです。 (商・2 年次生)

分	野	イベント			
内	容	子どもたちに科学の世界を体験してもらうイベントの運営補助			
日	程	2016年8月3日(水)			
感	想	ペットボトルで作った空気砲を使って子ども達に射的をしてもらいました。何回も来てくれる子どもも多く、みんな楽しそうに射的をしてくれて嬉しかったです。空気砲の作り方を熱心に聞いてくださった保護者の方もいて、とてもやりがいがありました。参加した学生に子ども達とたくさんふれあい、楽しんでボランティアをしていただけたと感じました。 (法・2年次生)			

分	野	環境
内	容	摂津峡公園の清掃活動
日	程	2016年8月21日(日)
感	想	同じ清掃活動といっても淀川清掃とは異なりバーベキューのゴミがそのまま放置されている状況に唖然としました。私たちの活動前日にも受入団体の方がボランティアとして掃除したにもかかわらず、すぐにゴミの量が戻ってしまう現状を聞き驚いたと同時に、訪れる人に対する「ゴミの持ち帰りの啓発活動」の大切さを痛感しました。ゴミの散乱がひどかった分、清掃の達成感は大きく、貴重な体験ができたと思います。 (文・2 年次生)

分	野	環境
מל	±]′	以
内	容	アユの産卵場を整備する
日	程	2016年10月22日(土)
感	想	熊手やスコップを使って川底をならすのは、想像していた以上に大変できつかったです。しかしその分終わった後の達成感が大きく、普段できないことができて楽しかったです。また、活動後に「あくあぴあ芥川」の講師の方から芥川に生息する魚の解説をしてもらい、知らなかった魚の生態を知ることができました。活動中に芥川倶楽部の方や参加していた地域の小学生の子ども達と話せたので楽しかったです。 (文・2 年次生)

分	野	イベント
内	容	子ども達とミサンガ、紙コップロケット作り
日	程	2016年10月23日(日)
感	想	とにかく子どもが可愛くて幅広い年齢層の子ども達が 来てくれて楽しそうに作ってくれました。個人的には作っ ている最中に子ども達と学校や家族のこと等、たくさん お話をすることが楽しかったです。やはり普段の生活の 中では経験できないことだと改めて思いました。 (法・2年次生)

分 野	イベント
内 容	キャンドルの準備、設置、点火、片づけ
日 程	2016年11月5日(土)
感想	今回のボランティアでは、デザインを決める打合せから学生ボランティアと関わることができる貴重な機会でした。学園祭の最中での開催だったので同時並行での準備が大変でした。キャンドルに火が灯されたとき、あまりにきれいだったので身体の動きが止まってしまいました。デザインのメインであるクジラ完成後、「Welcome」や「kandai」の文字を学生同士で協力して作成し、親睦を深めることができました。 (社会・2年次生)

分	野	イベント
内	歇	クイズやゲームを通した子ども達への防災教育
日	程	2016年11月3日(木)
感	想	大学生になって初めての文化祭でした。準備段階では、 どんな「借り物」を子ども達に選んでもらうか、分かり やすくルールの説明ができるか苦悩しました。本番まで に説明のシミュレーションを重ねて不安を解消すること ができました。子ども達や保護者の方々から「ありがとう」 と感謝の言葉を頂き、学生ボランティアの方々と協力し てやり遂げることができました。 (社会・2年次生)

12 資 料

ボランティアセンター内規

制定 平成17年4月28日

(趣 旨)

第1条 この内規は、関西大学学生センター規程(以下「規程」という。)第12条第2項の規定に基づき設置するボランティアセンター(以下「センター」という。)の運営等に関して必要な事項を定めるものとする。 (目 的)

第2条 センターは、本学学生の社会参画活動を支援することにより、学生の自主性及び社会性の涵養に資する ことを目的とする。

(事業)

- 第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
 - (1) ボランティアの相談に関すること。
 - (2) ボランティア情報の収集及び提供に関すること。
 - (3) ボランティア講習会に関すること。
 - (4) 関係行政機関、学外ボランティア団体等との連携・協力に関すること。
 - (5) その他ボランティアに関すること。

(登 録)

第4条 センターの利用を希望する学生は登録するものとする。

(センター長)

第5条 センターにセンター長を置き、学生センター所長をもって充てる。

(ボランティア連絡協議会)

- 第6条 センターにおけるボランティアの基本方針、具体的活動内容等を協議するため、規程第12条第2項の規 定によりボランティア連絡協議会(以下「協議会」という。)を置く。
 - 2 協議会は、次の者をもって構成する。
 - (1) センター長
 - (2) 学生センター副所長 1名
 - (3) 専任教育職員のうちから学長が指名する者 若干名
 - (4) 学生サービス事務局長
 - (5) 学生サービス事務局次長
 - (6) ボランティア活動支援グループ長
 - (7) 事務職員(ボランティア活動支援グループ・高槻キャンパスグループ・高槻ミューズキャンパスグループ・堺キャンパス事務室)若干名
 - 3 協議会の議長は、センター長とし、副議長は、議長の指名による。
 - 4 第2項第1号、第2号及び第4号から第6号までに規定する委員の任期は役職在任中とする。
 - 5 第2項第3号に規定する委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
 - 6 委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
 - 7 協議会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(学生スタッフ)

- 第7条 センターに、学生スタッフを置く。
 - 2 学生スタッフは、第3条に規定する事業に参画し、本学学生のボランティア活動を支援するものとする。
- 第8条 この内規に定めるもののほか、ボランティアに関し必要な事項は、協議会の議を経て定める。

(事務)

第9条 ボランティアに関する事務は、ボランティア活動支援グループが行う。

附則

この内規は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この内規(改正)は、平成18年10月12日から施行し、平成18年8月1日から適用する。

附 則

この内規(改正)は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この内規(改正)は、平成22年4月1日から施行する。

附則

- 1 この内規(改正)は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 この内規(改正)施行の際に第6条第2項第3号により選出される委員の任期は、同条第5項の規定にかか わらず平成26年9月30日までとする。

関西大学ボランティアセンターにおけるボランティア団体の紹介に関する方針

2007年1月11日

関西大学ボランティアセンターでは、以下に該当するボランティア団体の活動を紹介します。

- 1 公益性・公共性が高い活動。
- 2 営利を目的としない活動。
- 3 活動にあたり、安全性が高いと判断される活動。
- 4 受け入れた学生に対し、教育的配慮を伴った対応をする団体における活動。

(1) ボランティア募集の受付

- ①初めてボランティア活動を募集する団体は、「団体の責任者の名刺」、「組織概要がわかるパンフレット等」および「ボランティア募集チラシ(A4サイズに限る)」を持参のうえ、来室をお願いします。(教育委員会等の公共的機関の場合はこの限りではありません。)
- ②来室時に所定の「ボランティア団体登録用紙」に記入をお願いします。
- ③ボランティア募集団体には、必要に応じて、規約、役員名簿、収支報告書、活動報告等の団体の実績がわかる書類等の提出をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。
- ④学生等がボランティア活動を行った際に、募集条件と異なる状況が判明した場合、精神的・肉体的苦痛を受けた場合等には、そのボランティア団体の募集を停止します。
- ⑤個人からのボランティア募集は受付いたしません。(地域の社会福祉協議会、大阪ボランティア協会およびその他関連機関へご依頼ください。)
- (2) ボランティア団体・活動の選定基準 (以下に該当するものは受付できません。また、この選定基準 は受付時のみでなく、活動中にも適用いたします。)
- ①法令に違反するもの。
- ②公序良俗に反するもの。
- ③人体に有害なもの、危険が伴うもの。
- ④政治的・宗教的活動を主たる目的とするもの。
- ⑤関西大学ボランティア連絡協議会が不適当であると判断するもの。

(3) ボランティア受け入れ団体との申し合わせ

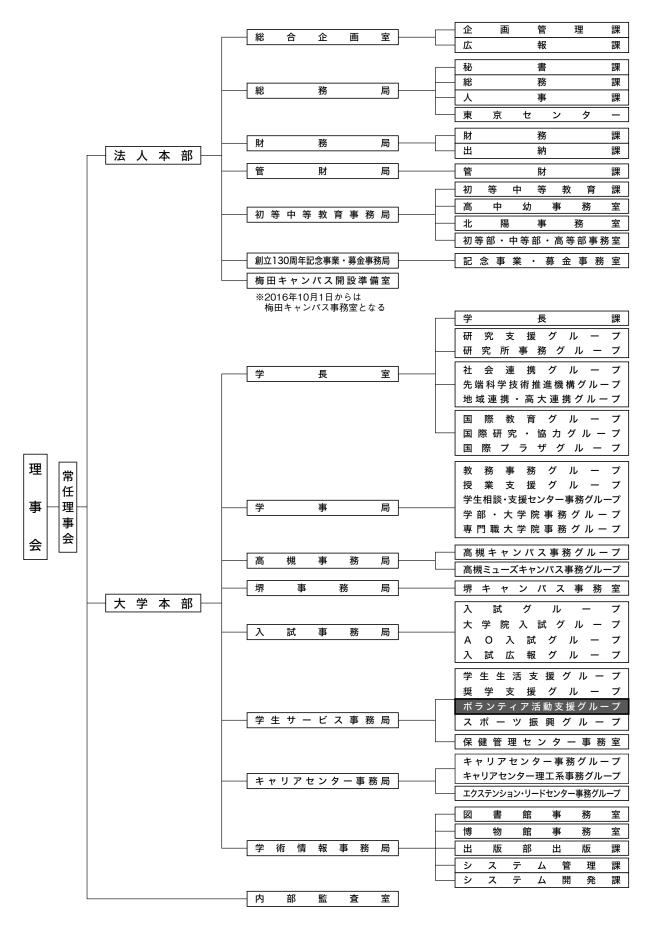
ボランティア受け入れ団体と関西大学ボランティアセンターとは、以下の点を申し合わせ事項として 確認します。

- ①ボランティア受け入れ団体はボランティア申込者に対し、活動内容や条件等を提示し、その内容について両者の間で合意のうえ、活動を始めることとする。
- ②ボランティア受け入れ団体は活動を始める前に、オリエンテーション等を実施し、活動に必要な情報や留意点をあらかじめ伝達し、活動が始まった後は、必要に応じて研修・支援等を行うこととする。
- ③ボランティア活動中は、各団体ボランティア担当スタッフとともに活動を行うこととする。
- ④学生がボランティア活動を行う際には、あらかじめボランティア保険に加入していることを必ず確認 し、未加入の場合は活動させないこととする。
- ⑤次の内容を含む活動については紹介できないこととする。
 - (ア) 22時以降6時までの深夜早朝活動
 - (イ) 精神的、肉体的苦痛が心配されるもの
 - (ウ) 水泳監視、ベビーシッターおよび病人の介護等の人命にかかわることが予想されるもの
 - (エ) 車の運転
- (オ) 本来、有資格者によってなされるべき活動

(4) 免責事項

ボランティアセンターで紹介するボランティア情報に関して発生したトラブル等に対し、ボランティアセンターでは責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

以 上



関西大学ボランティア連絡協議会委員

2016.4.1 現在

2016.10.1 現在

2016. 4. 1				
所属•資格	氏	名	任 期	備考
ボランティアセンター長 (社会学部・教授)	黒田	勇	役職任期中	委員長
学生センター副所長 (文学部・教授)	赤尾	勝己	役職任期中	副委員長
社会学部•教授	加納	恵子	H26.10.1 ~ 28.9.30	
人間健康学部•教授	山縣	文 治	H26.10.1 ~ 28.9.30	
社会安全学部・准教授	菅	磨志保	H26.10.1 ~ 28.9.30	
学生サービス事務局長	中塚	義 史	役職任期中	
学生サービス事務局 次長	鈴木	啓 祐	役職任期中	
ボランティア活動支援 グループ長	堀	律子	役職任期中	
ボランティア活動支援 グループ	柴田	えつ子		
ボランティア活動支援 グループ	村上	翔也		
高槻キャンパス 事務グループ	鈴木	宣夫		
高槻ミューズキャンパス 事務グループ	佐藤	喜大		
高槻ミューズキャンパス 事務グループ	松田	花 衣		
堺キャンパス事務室	前田	貴 史		

所 属・資 格	氏	名	任 期	備考
ボランティアセンター長 (政策創造学部・教授)	岡本	哲 和	役職任期中	委員長
学生センター副所長 (化学生命工学部・教授)	松 村	吉信	役職任期中	副委員長
社会学部•教授	加納	恵子	H28.10.1 ~ 30.9.30	
政策創造学部•准教授	橋口	勝利	H28.10.1 ~ 30.9.30	
人間健康学部•准教授	灘	英世	H28.10.1 ~ 30.9.30	
学生サービス事務局長	中塚	義 史	役職任期中	
学生サービス事務局 次長	鈴木	啓 祐	役職任期中	
ボランティア活動支援 グループ長	堀	律子	役職任期中	
ボランティア活動支援 グループ	柴田	えつ子		
ボランティア活動支援 グループ	村上	翔 也		
高槻キャンパス事務 グループ	鈴木	宣夫		
高槻ミューズキャンパス 事務グループ	佐 藤	喜 大		
高槻ミューズキャンパス 事務グループ	松田	花 衣		
堺キャンパス事務室	前田	貴史		

2016年度ボランティア活動支援グループスタッフ

ボランティア活動支援グループ長	堀		律	子
	柴	田	えつ	子
ゴニン・・→江科+塚屋 ローデ	村	上	翔	也
ボランティア活動支援グループ	春	名	未	希
	渡	瀬	亜	紀

***** ボランティアセンター紹介記事 *****



機関誌『關大』第598号(2017年3月15日発行)





学生スタッフってなに?

「学生が参画する大学」を実現 ~その先に築く"教育力×社会力×人間力"~

教育や授業の効果・効率を高め、質的向上の貢献に参画する。学生の修動的な学修の支援に参画する。学生の自主性と社会性の調養や、解がいのある学生の修学支援に向けた活動に参画する。——誰もが、充実した大学生活を。 そのためには学生自身が主体的に大学に関わることも大切です。関西大学では、さまざまな支援活動を担う学生スタッフという立場で、教育と学生を磨くシステムが整っています。

◆授業支援 SA (スチューデント

アシスタント) とは?

カードリーダーによる出欠確認や各種事務をはじめ、配付資料の 印刷、阪菜のビデオ業制、プロジェクター、AV機能などの設置及 び利用機能も行います。我員のニーズにはタイムリーかつオンデ マンドに対応、学生及び教員に多様なサービスを展開しています。

◆総合図書館ラーニング・ コモンズスタッフとは?

総合図書館ラーニング・コモンズは、電子業板などを駆使したグルー プディスカッションが可能な施設。スタッフは、快適な投資利用に 向け、機器貸出業務や買い合わせ対応の他、機器の紹介動画や案 内パンフレット作成などを行っています。

◆ボランティアセンター学生スタッフとは?

「関大生にボランティア活動を広める"という使命を持って、定川河 川敷での漢等など、学生が参加しやすいボランティア活動を企画。 広報しています。 ※田市・高橋市・大阪府社会福祉協議会や大阪 ボランティブ協会などとの連携もあります。

◆学生相談・支援センター 学生支援スタッフとは?

障がいのある学生から要請のあった授業におけるノートテイク やパソコンテイクなどを行っています。 

21 Be Prood CAN KANDAN

******* ボランティアセンター紹介記事 *******



2016年度活動報告(第11号)編集委員

	グループ長 堀	律	子
ボランティア活動支援グループ	村上	翔	也
	三浦		茜
ボランティアセンター学生スタッフ	2016年度代 綿 谷	表 亮	太

編集後記

「初めて会ったように思えない」

以前ボランティアセンターが実施したボランティアイベント後に参加者の一人がもらしたひとことです。

ボランティアセンターでは学生スタッフが中心となってボランティアの魅力を関大生に広めることを目的に多種多様なボランティアプログラムを実施しています。ボランティアに参加する関大生は初めて顔を合わせることがほとんどです。

以前実施した子どもと関わるボランティアイベントでは、はじめの自己紹介の際、みんなどこか表情が固く、ぎこちない雰囲気でした。先方団体さんは、10歳に満たないこども達と「ともだち」のように関わり、子ども達の最高の笑顔を引き出してお話ししたり、鬼ごっこをしていました。「本学のボランティア学生も同じように関われるだろうか」と、私も少し不安に思いながらも、その場を少し離れ別の輪の様子を見に行きました。そこでも団体さんと子ども達はワイワイと楽しく遊んでいます。「長い時間をともにしているから 信頼関係ができているんだな」と思っていました。

30 分ほど経って、最初の輪に戻りました。すると、そこには屈託のない笑顔で子ども達とふれあう学生の姿がありました。さらに、自己紹介の時、あれだけぎこちなかったボランティア学生同士も楽しく会話をしていました。その場にいる全員が大きな暖かい輪で繋がっているように見えました。

ボランティアが必要とされる背景は多種多様です。災害関係、環境保全、国際交流等社会からの要請は様々です。 しかし、一つ大きな共通点があります。それは【社会からの要請を受け「自ら動く」活動である】という点です。 初めてあった人同士であっても、目の前のことに手を差し伸べたいという気持ちは同じです。そのため「初めて会ったように思えないなぁ」と発言した参加者は"心の繋がり"を感じたのではないでしょうか。

この報告書を手にして、「どうせボランティアなんか・・・」と思っている、あなた。ボランティアには人と人を結びつける、"魔法"のような力があります。是非一歩踏み出してみてはいかがでしょうか。ボランティアセンターでは、あなたの「歩み」を全力でサポートいたします。みなさんの大きな、記念すべきかけがえのない一歩に立ち会えることを、ボランティアセンター教職員・学生スタッフ一同心より楽しみにしています。

ボランティア活動支援グループ 村 上 翔 也

2016年度 活動報告書(第11号)

発 行 日 2018年3月30日

発 行 所 関西大学ボランティアセンター (関西大学学生センター内)

> 〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35 TEL 06-6368-1121 FAX 06-6368-0703 http://www.kansai-u.sc.jp/volunteer

印 刷 所 株式会社 ディーワーク 〒532-0026 大阪市淀川区塚本3-14-6



関西大学ボランティアセンター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35 TEL.06-6368-1121 FAX.06-6330-3703 http://www.kansai-u.ac.jp/volunteer